

ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER モデル作成の規則

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 16
2021 年 10 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2021 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <https://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <https://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <https://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

1	はじめに.....	1
2	一般表記規則	2
2.1	ユーザーとユーザー グループ	2
2.1.1	組織図	2
2.1.2	ロール オブジェクト	10
2.1.3	要員オブジェクト.....	10
2.2	企業の資産 (階層).....	11
2.2.1	アプリケーション システム タイプ階層.....	13
2.2.2	組織階層	14
2.2.3	プロセス階層	15
2.2.4	規定と標準の階層	20
2.2.5	リスク カテゴリの階層	21
2.2.6	検査者の階層	22
3	方針管理表記規則	24
3.1	プロセス内の方針.....	24
3.2	ビジネス ルール アーキテクチャ図	24
3.3	ビジネス コントロール図	25
3.4	方針オブジェクト.....	26
4	規制変更管理表記規則	30
4.1	用語モデル.....	30
4.2	用語オブジェクト.....	30
4.3	ロールと用語の関係	31
5	調査管理表記規則	33
5.1	質問票テンプレート図	34
5.2	質問票テンプレート オブジェクト.....	38
5.3	セクション オブジェクト.....	40
5.4	質問オブジェクト.....	41
5.5	オプション セット オブジェクト	45
5.6	回答オプション オブジェクト.....	45
5.6.1	依存する質問/セクション.....	46

5.7	質問票テンプレート割当図	51
5.8	調査スケジューラー オブジェクト.....	57
6	リスク マネジメントの表記規則	59
6.1	プロセスと企業資産にあるリスク	59
6.2	リスクへのモデル アサインメント.....	59
6.3	ビジネス コントロール図	60
6.4	リスク オブジェクト.....	62
7	統制管理表記規則	67
7.1	プロセスと企業資産にある統制	67
7.2	ビジネス コントロール図	67
7.3	統制オブジェクト.....	69
7.4	統制実行の定義オブジェクト.....	71
8	検査管理表記規則	74
8.1	ビジネス コントロール図	74
8.2	統制オブジェクト.....	75
8.3	統制検査の定義オブジェクト.....	76
8.4	統制の統制検査の定義の一意性.....	78
8.5	自動の統制検査	78
9	サインオフ管理の表記規則	79
9.1	プロセス階層を使用するサインオフ.....	80
9.2	規定と標準の階層を使用するサインオフ.....	81
9.3	組織階層を使用するサインオフ.....	81
9.4	検査者階層を使用するサインオフ.....	82
10	監査管理表記規則	83
10.1	プロセス スケジュール モデル (監査テンプレート)	83
10.2	監査テンプレートとしてのタスク オブジェクト.....	86
10.3	プロセス スケジュール モデル (監査手順テンプレート)	89
10.4	タスク オブジェクト (監査手順テンプレート).....	92
10.5	タスク割当図	94
11	用語集	97
12	法的情報	101
12.1	ドキュメンテーションのスコープ	101

1 はじめに

ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) は、リスクに基づくリスク評価ワークフローなど、マスター データに基づくワークフローを生成します。一部の ARIS Risk & Compliance Manager コンポーネントでは、調査を生成する調査スケジューラーなどのワークフローの生成に特定のオブジェクトが使用されます。

マスター データは、ARIS Risk & Compliance Manager や、ARIS Architect または ARIS Connect などの ARIS モデリング環境で指定できます。マスター データが ARIS Risk & Compliance Manager で指定されていない場合は、データを ARIS Risk & Compliance Manager に転送する必要があります。ARIS モデリング環境でマスター データ (モデルとオブジェクト) を記録すると、一貫性、複雑性の低減、再利用性、評価の可能性、整合性など、さまざまなメリットがあります。ただし、これはモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ可能になります。ARIS モデリング環境に関連するオブジェクトを適切に指定するために、本マニュアルの表記規則を順守することをお勧めします。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager と同期して、再利用することができます。

ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのデータの同期は、デフォルトの ARIS メソッドに基づきます。[ファンクション] オブジェクト タイプにユーザー定義のシンボルを使用するような、メソッドの拡張または変更は、同期アルゴリズムの調整が必要になる場合があります。この場合は、Software AG の窓口またはサポートにお問い合わせください。

本マニュアルの内容

本書では、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。各セクションには次の内容が含まれます。

- ARIS Risk & Compliance Manager コンポーネントと関連要件のために使用される関連するモデル、オブジェクト、関係、属性の概要。
- ARIS モデリング環境と ARIS Risk & Compliance Manager の間のオブジェクトと属性のマッピングを含む、個別のモデル作成の表記規則。

目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザーの文書

2 一般表記規則

2.1 ユーザーとユーザー グループ

2.1.1 組織図

ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER のロール、ユーザー グループ、ユーザー

ARIS Risk & Compliance Manager では、ユーザーは特別なユーザー グループに割り当てられます。ユーザーグループ ([リスク担当者グループ UMG] など) のロール ([リスク担当者] など) は、割り当てられたユーザーの権限 ([リスクとリスク評価の読取権限] など) を指定します。ユーザーは、同時に複数のユーザー グループに所属できます。

リスク マネジメントや統制管理などの各コンポーネントは、管理者、所有者、評価者、監査人などのさまざまなロールを提供します。管理者ロールは、各ワークフローの準備、計画、開始を担当します。所有者ロールは、貢献するユーザーです。評価者ロールは、二重統制 (4 つの目の原則) を担当します。監査人ロールは、読取専用ですべての情報にアクセスできます。一部のコンポーネントでは、調査管理の所有者ロールに対する調査回答者など、特定のロールに対応する具体的な名前があります。ほかに、必要なロールが少ないコンポーネントもあります。たとえば、統制の実行に対応する監査人はいません。また、方針管理の承認者など、さまざまなロールがあるコンポーネントがあります。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ARIS モデリング環境のロール、ユーザー グループ、ユーザーモデル

ユーザーおよびユーザー グループは、[ロール] (OT_PERS_TYPE) および [要員] (OT_PERS) のオブジェクトを使用して組織図でモデル化します。[ロール] オブジェクト間の関係は、[汎化結果である] 接続線を使用して表されます。[ロール] オブジェクトと [要員] オブジェクトの関係は、[担当する] 接続線を使用して表されます。モデルのすべての要素を ARIS Risk & Compliance Manager に転送するには、[ARCM の同期] モデル属性 (AT_AAM_EXPORT_RELEVANT) に「真」を設定します。

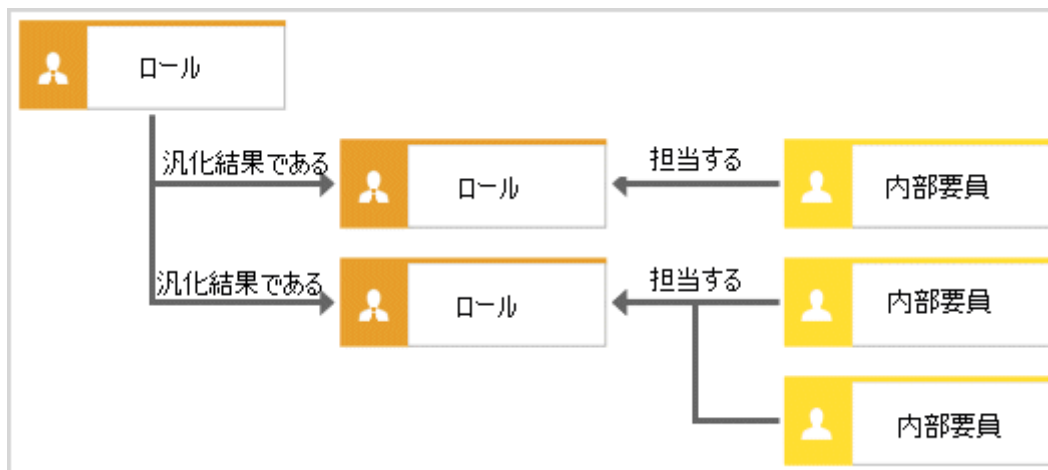


図 1: ユーザーおよびユーザー グループの構造

組織図にある上位の [ロール] オブジェクト (以下の画像の [リスク所有者_3] など) によって、下位のロール オブジェクトのロールとロール レベル、それらによる ARIS Risk & Compliance Manager のユーザー グループの権限が決まります。上位ロールの名前の命名規則は <ロール>_<レベル> です (例: リスク所有者_3)。ロールのマッピングを確実に機能させるためには、上位ロール (以下のテーブルを参照) に正確な ARIS ロール名を使用する必要があります。ここでの下位のロールには命名規則はありません。

上位ロールに対応するユーザー グループは ARIS Risk & Compliance Manager では生成されません。下位の [ロール] オブジェクトにより、ARIS Risk & Compliance Manager で生成されるユーザー グループが決まります。下位の [ロール] オブジェクトは、1 つの上位 [ロール] オブジェクトと [汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。

ARIS Risk & Compliance Manager で生成されるユーザーは [要員] オブジェクトを使用してモデル化され、下位の [ロール] オブジェクトへの接続線があります。[ユーザー管理からユーザー データをインポートする] レポートを使用して、ユーザー データを [ARIS 管理/ユーザー管理] から ARIS Architect にインポートできます。詳細については、ARIS Risk & Compliance Manager ヘルプの [ユーザー データのインポート] を参照してください。

例

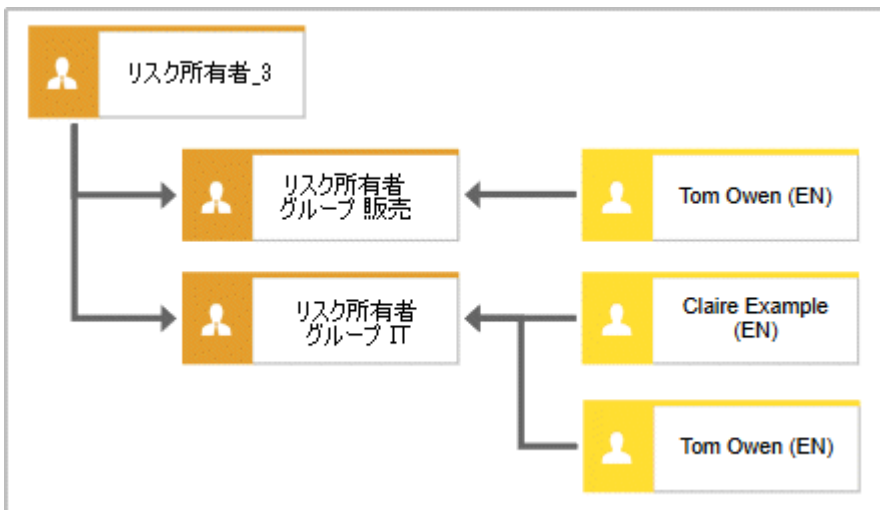


図 2: ユーザーおよびユーザー グループの構造 - 例

上位の [ロール] オブジェクトである [リスク所有者_3] (名前の表記規則: <ロール>_<レベル>) で、[リスク所有者] のロール (<ロール>) と、オブジェクト固有のロール レベルに対応するロール レベル 3 (<レベル>) が決まります (下のテーブルを参照)。

次のオブジェクトが ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。

- オブジェクト固有のロール レベルを持つ [リスク所有者] を割り当てた [リスク所有者グループ 販売] と [リスク所有者グループ IT] のユーザー グループ。
- 2 人のユーザー。ユーザー名は [Tom Owen] と [Claire Example] です。彼らには、割り当てられたユーザー グループのロールとロール レベルがあります (= オブジェクト固有のリスク所有者)。Tom Owen は、[リスク所有者グループ 販売] と [リスク所有者グループ IT] の両方のユーザー グループに割り当てられています。

ロール レベル

- ロール レベル 1 は [複数環境] に対応します

ロールに基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、すべての環境に適用されます。
- ロール レベル 2 は [環境固有] に対応します

役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループが割り当てられた環境に適用されます。
- ロール レベル 3 は [オブジェクト固有] に対応します

ロールに基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、そのユーザー グループが割り当てられた環境のオブジェクトに適用されます。

属性マッピング: ロール名 (ARCM) とロール (ARIS) の対応一覧

監査管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
監査監査人	Audit auditor_1	複数環境
	Audit auditor_2	環境固有
	Audit auditor_3	オブジェクト固有
監査担当者	Audit manager_1	複数環境
	Audit manager_2	環境固有
監査所有者	Audit owner_3	オブジェクト固有
監査評価者	Audit reviewer_3	オブジェクト固有
監査手順所有者	Audit step owner_3	オブジェクト固有

不備管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
不備監査人 L1	Deficiency auditor (L1)_1	複数環境
	Deficiency auditor (L1)_2	環境固有
不備監査人 L2	Deficiency auditor (L2)_1	複数環境
	Deficiency auditor (L2)_2	環境固有
不備監査人 L3	Deficiency auditor (L3)_1	複数環境
	Deficiency auditor (L3)_2	環境固有
不備担当者 L1	Deficiency manager (L1)_1	複数環境

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
	Deficiency manager (L1)_2	環境固有
	Deficiency manager (L1)_3	オブジェクト固有
不備担当者 L2	Deficiency manager (L2)_1	複数環境
	Deficiency manager (L2)_2	環境固有
	Deficiency manager (L2)_3	オブジェクト固有
不備担当者 L3	Deficiency manager (L3)_1	複数環境
	Deficiency manager (L3)_2	環境固有
	Deficiency manager (L3)_3	オブジェクト固有

方針管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
方針監査人	Policy auditor_1	複数環境
	Policy auditor_2	環境固有
	Policy auditor_3	複数環境
方針管理者	Policy manager_1	複数環境
	Policy manager_2	環境固有
方針所有者	Policy owner_3	オブジェクト固有
方針承認者	Policy approver_3	オブジェクト固有
方針受取人	Policy addressee_3	オブジェクト固有

リスク マネジメント

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
リスク監査人	Risk auditor_1	複数環境
	Risk auditor_2	環境固有
リスク担当者	Risk manager_1	複数環境
	Risk manager_2	環境固有
	Risk manager_3	オブジェクト固有
リスク所有者	Risk owner_3	オブジェクト固有
リスク評価者	Risk reviewer_3	オブジェクト固有

統制管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
統制監査人	Control auditor_1	複数環境
	Control auditor_2	環境固有
	Control auditor_3	オブジェクト固有*
統制実行所有者	Control execution owner_3	オブジェクト固有
統制担当者	Control manager_1	複数環境
	Control manager_2	環境固有
	Control manager_3	オブジェクト固有

サインオフ管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
サインオフ所有者	Sign-off owner_3	オブジェクト固有
サインオフ担当者	Sign-off manager_2	環境固有
	Sign-off manager_3	オブジェクト固有
サインオフ評価者	Sign-off reviewer_3	オブジェクト固有

調査管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
調査監査人	Survey auditor_1	複数環境
	Survey auditor_2	環境固有
	Survey auditor_3	オブジェクト固有
調査担当者	Survey manager_1	複数環境
	Survey manager_2	環境固有
	Survey manager_3	オブジェクト固有
調査評価者	Survey reviewer_3	オブジェクト固有
調査回答者	Interviewee_3	オブジェクト固有

検査管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
検査監査人	Test auditor_1	複数環境
	Test auditor_2	環境固有

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
	Test auditor_3	オブジェクト固有*
検査監査人 (外部)	Test auditor external_1	複数環境
	Test auditor external_2	環境固有
検査者	Tester_3	オブジェクト固有
検査担当者	Test manager_1	複数環境
	Test manager_2	環境固有
	Test manager_3	オブジェクト固有
検査評価者	Test reviewer_3	オブジェクト固有

課題管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
課題監査人	Issue auditor_1	複数環境
	Issue auditor_2	環境固有
課題担当者	Issue manager_1	複数環境
	Issue manager_2	環境固有

インシデントおよび損失管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
インシデント監査人	Incident auditor_1	複数環境
	Incident auditor_2	環境固有
インシデント担当者	Incident manager_1	複数環境
	Incident manager_2	環境固有
インシデント所有者	Incident owner_3	オブジェクト固有
インシデント評価者	Incident reviewer_3	オブジェクト固有
損失監査人	Loss auditor_1	複数環境
	Loss auditor_2	環境固有
損失担当者	Loss manager_1	複数環境
	Loss manager_2	環境固有
損失所有者	Loss owner_3	オブジェクト固有

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
損失評価者	Loss reviewer_3	オブジェクト固有
損失所有者	Loss owner_3	オブジェクト固有

管理

ロール	ARIS ロール名	ロール レベル
階層担当者	Hierarchy manager_1	複数環境
	Hierarchy manager_2	環境固有
階層監査人	Hierarchy auditor_1	複数環境
	Hierarchy auditor_2	環境固有
階層所有者	Hierarchy owner_3	オブジェクト固有
ユーザー/ユーザー グループ管理者	User/User groups manager_1	複数環境
	User/User groups manager_2	環境固有

* オブジェクト固有の統制監査人とオブジェクト固有の検査監査人のロールは、個別の統制オブジェクトやテストオブジェクトにではなく、階層オブジェクトに接続されます。これらの階層オブジェクトが、統制、統制の実行、または統制検査のすべての調査範囲になります。これらのオブジェクト固有の監査人ロールと階層との間の接続線は、階層タイプに応じて、[属する] 接続線 (CT_WRK_IN) または [所有者である] 接続線 (CT_IS_OWN) である必要があります。

2.1.2 ロール オブジェクト

属性マッピング: ロール (ARIS) とユーザー グループ (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*
名前	AT_NAME	○
説明/定義	AT_DESC	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

2.1.3 要員オブジェクト

属性マッピング: 要員 (ARIS) とユーザー (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*
ログオン	AT_LOGIN	○
名	AT_FIRST_NAME	○
姓	AT_LAST_NAME	○
説明/定義	AT_DESC	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	○
電話番号	AT_PHONE_NUM	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

2.2 企業の資産 (階層)

組織ユニット、プロセス、システムなどの企業の資産は、ARIS Risk & Compliance Manager の階層要素として使用できます。ARIS Risk & Compliance Manager に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。ARIS Risk & Compliance Manager ワークフローに関連するオブジェクト (調査スケジューラーなど) で使用されている階層要素は、その上位の階層ツリーを含めて ARIS Risk & Compliance Manager に転送されます。モデルのすべての階層要素を ARIS Risk & Compliance Manager に転送するには、[ARCM の同期] モデル属性 (AT_AAM_EXPORT_RELEVANT) に「true」を設定します。最上位階層要素がまだ ARIS Risk & Compliance Manager に存在しない場合は、ARIS モデリング環境の各関連階層組織に対応する階層要素が ARIS Risk & Compliance Manager に作成されます。



図 3: ARIS Risk & Compliance Manager の最上位階層要素

ARIS Risk & Compliance Manager の階層の表記規則は以下に記載されています。データ階層の表記規則の詳細については、GDPR の ARIS アクセラレーター パッケージのみに付属する『ARIS アクセラレーターの GDPR 表記規則』マニュアルを参照してください。

ARIS での階層構造

以下の図は、プロセス モデリングのレベル、そのレベルで使用が推奨されるプロセス モデル タイプ、および関連する企業資産を示しています。

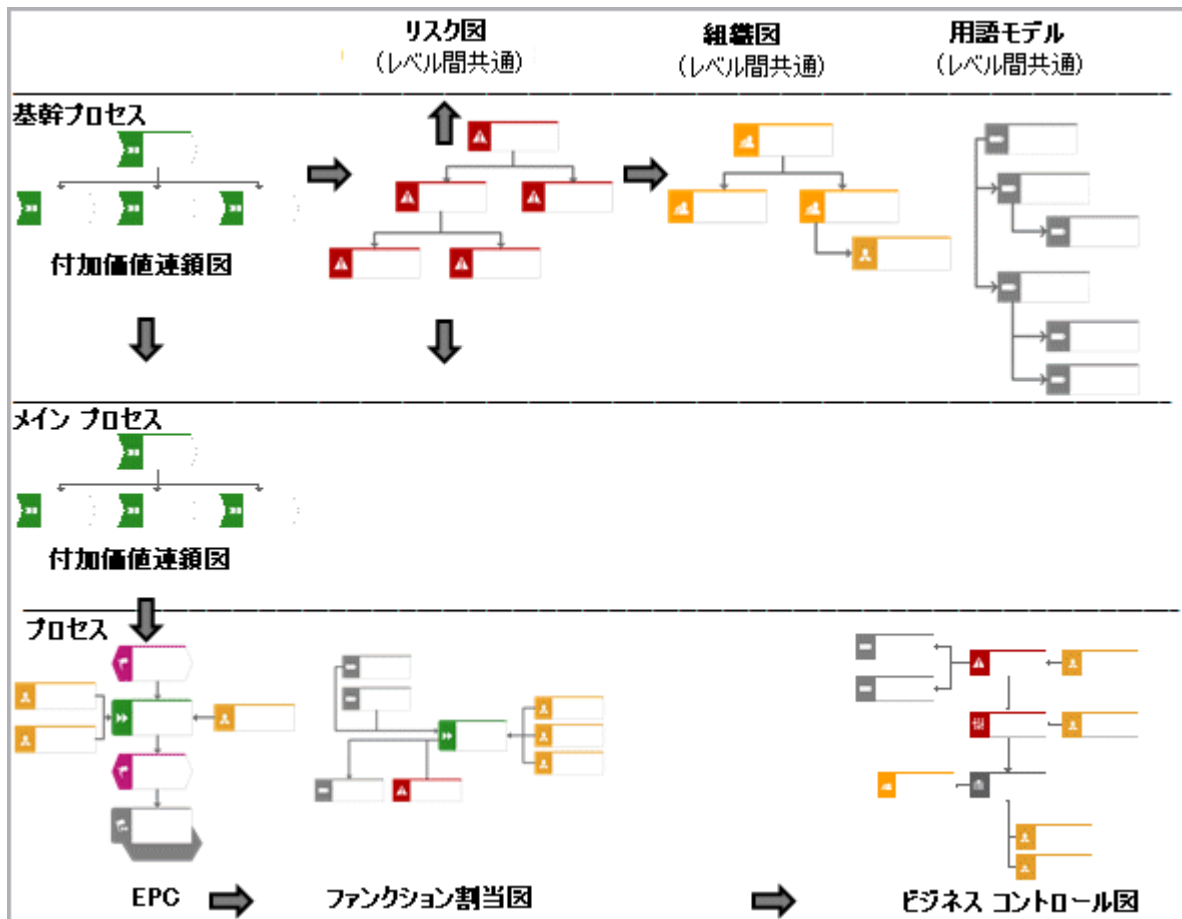


図 4: モデリング レベルおよびモデル タイプ

2.2.1 アプリケーション システム タイプ階層

アプリケーション システム タイプ階層は、ARIS モデリング環境の [アプリケーション システム タイプ図] モデル (MT_APPL_SYS_TYPE_DGM) で [アプリケーション システム タイプ] オブジェクト (OT_APPL_SYS_TYPE) を使用してモデル化します。オブジェクト間の階層は、[含む] 接続線を使用して表されます。

必要な場合は、[アプリケーション システム クラス] オブジェクト タイプ (OT_APPL_SYS_CLS) を上位階層要素として追加できます。これを有効にするには、同期アルゴリズムの調整が必要になります。詳細については、Software AG サポート チームにお問い合わせください。

ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。



図 5: アプリケーション システム タイプ階層

属性マッピング: アプリケーション システム タイプ (ARIS) とアプリケーション システム タイプ階層 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

2.2.2 組織階層

組織階層は、ARIS モデリング環境の [組織図] モデルで [組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用してモデル化します。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

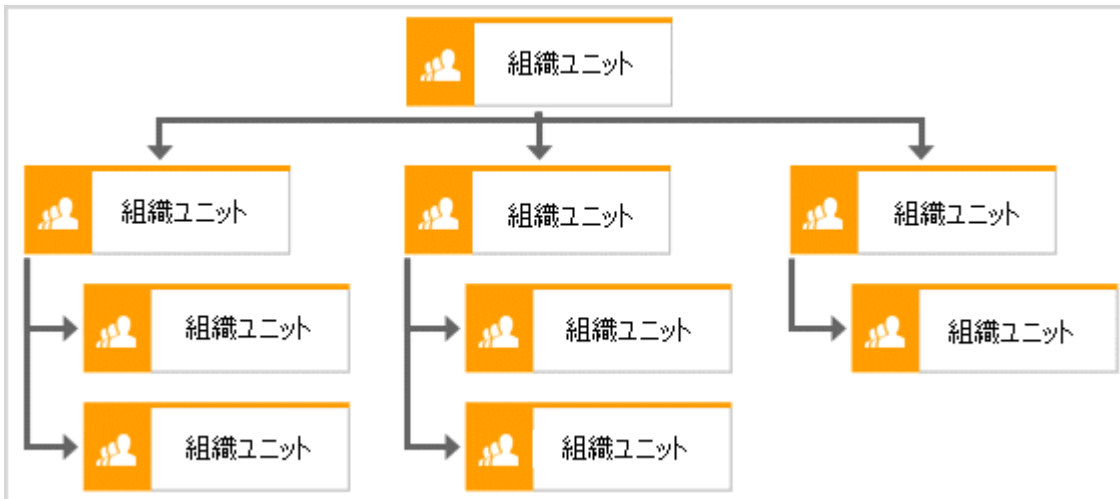


図 6: 組織階層構造

属性マッピング: 組織ユニット (ARIS) と組織階層要素 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		サインオフ管理 『79ページ 』に関してのみ関係します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

2.2.3 プロセス階層

次のプロセス モデルは、プロセス階層を設定するために使用できます。

モデル名	モデル タイプ名
付加価値連鎖図	MT_VAL_ADD_CHN_DGM
EPC	MT_EEPC
EPC (マテリアル フロー)	MT_EEPC_MAT
EPC (列表示)	MT_EEPC_COLUMN
EPC (行表示)	MT_EEPC_ROW
EPC (テーブル表示)	MT_EEPC_TAB
EPC (水平テーブル表示)	MT_EEPC_TAB_HORIZONTAL
ファンクション ツリー	MT_FUNC_TREE
BPMN process diagram (BPMN 2.0)	MT_BPMN_PROCESS_DIAGRAM
Enterprise BPMN process diagram	MT_ENTERPRISE_BPMN_PROCESS

ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。以下に挙げるのは、さまざまな表記（付加価値連鎖、EPC、BPMN）を使用したプロセス ランドスケープのモデル化の例です。

付加価値連鎖図 (VACD) によるプロセスのモデル化

プロセス概要は、しばしば [付加価値連鎖図] モデル タイプを使用してモデル化されます。ARIS Risk & Compliance Manager では、VACD のファンクションはプロセス階層オブジェクトに変換されます。



図 7: 付加価値連鎖図

例

この例では、基幹プロセスの概要が、プロセス階層のエントリ モデルとして使用されています。

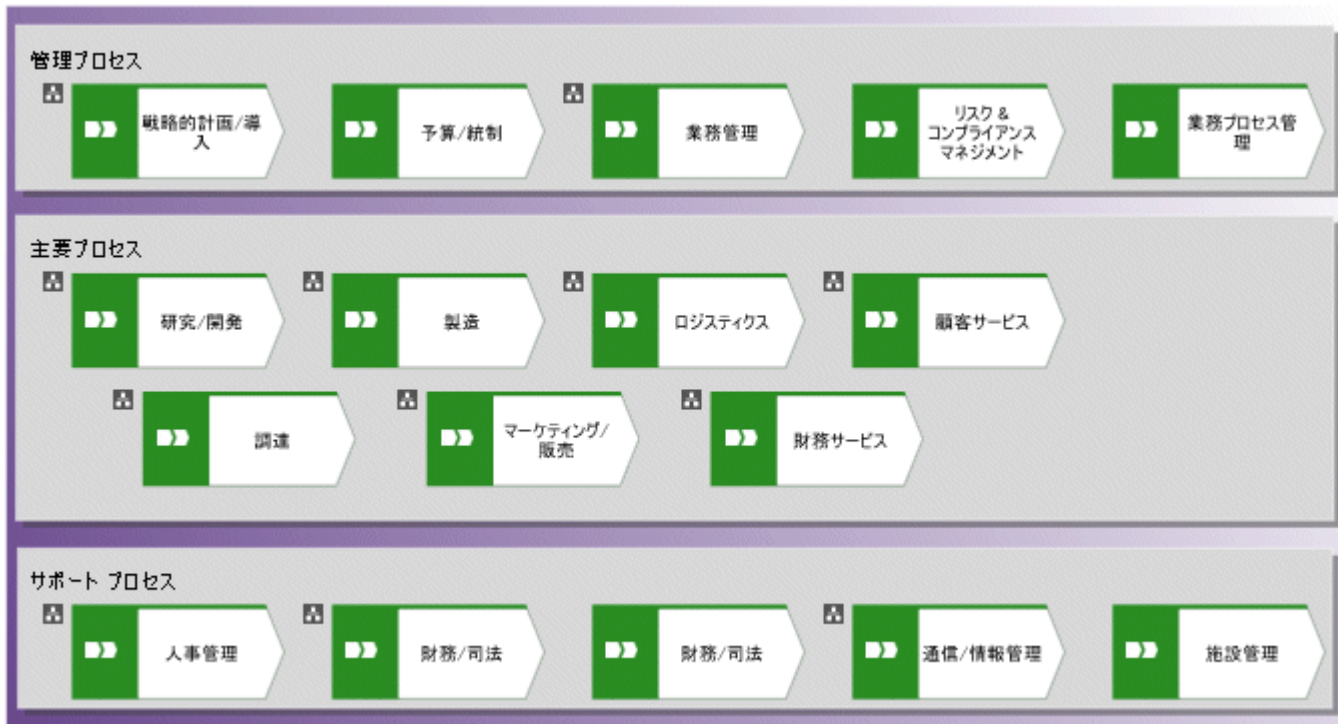


図 8: 付加価値連鎖図 - 例

使用されるオブジェクト タイプは [ファンクション] (OT_FUNC) です。オブジェクト間の階層は、[プロセス指向的に上位にある] 接続線または [プロセス指向的に下位にある] 接続線を使用して表されます。次のモデル タイプは、VACD にある 1 つの [ファンクション] オブジェクト タイプにアサインできます。

目標	アサインされるモデル タイプ
Subprocess [付加価値連鎖]	VACD
ほかのアサインされたオブジェクトの表示	ファンクション割当図

イベント駆動のプロセス連鎖 (EPC) によるプロセスのモデル化

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。

ARIS Risk & Compliance Manager では、EPC のファンクションはプロセス階層オブジェクトに変換されます。

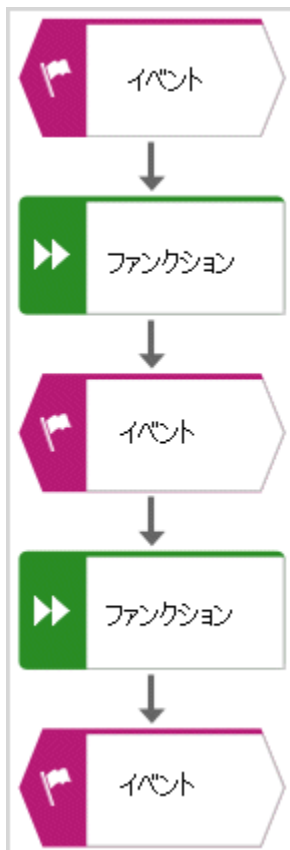


図 9: イベント駆動のプロセス連鎖 1

このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、ロール、アプリケーション システムなど）を補足することができます。

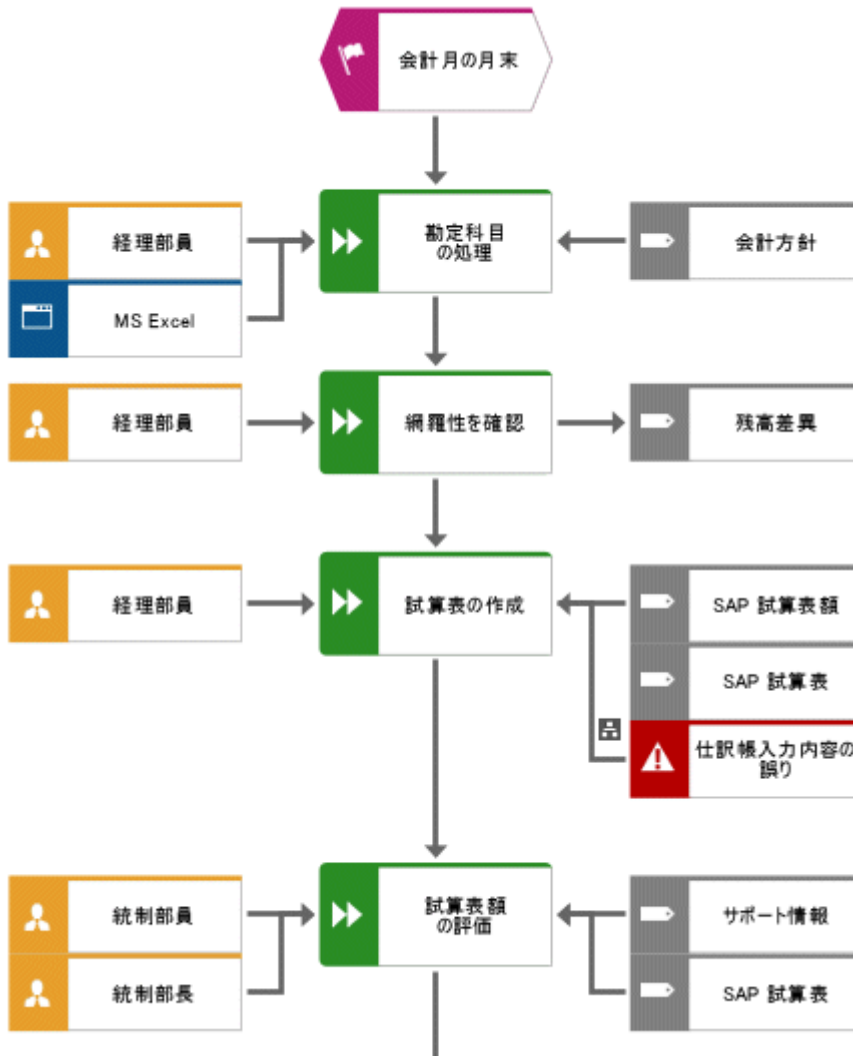


図 10: イベント駆動のプロセス連鎖 2

プロセス図を簡素に保つには、サブプロセスを作成するか、モデルのアサインメントを使用してファンクションに追加オブジェクトをアサインします。次のモデル タイプは、EPC にある 1 つの [ファンクション] オブジェクト にアサインできます。

目標	アサインされるモデル タイプ
Subprocess	EPC
ほかのアサインされたオブジェクトの表示	ファンクション割当図



図 11: ファンクション割当図

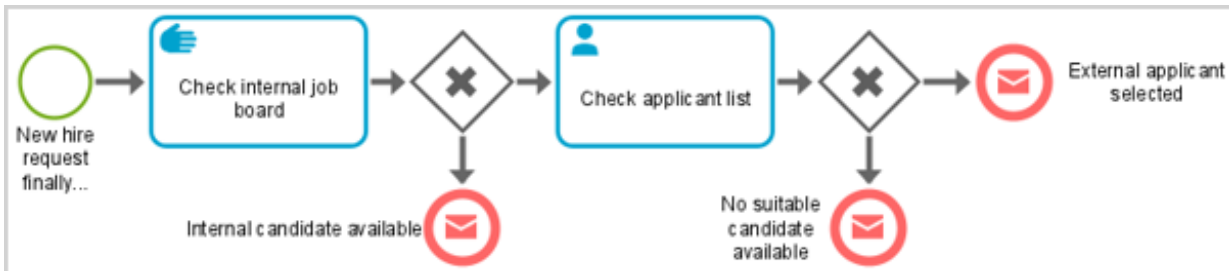
属性マッピング: ファンクション (ARIS) とプロセス階層要素 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ 関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		サインオフ管理 『79ページ 』に 関してのみ関係します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

ビジネス プロセス モデリング表記法 (BPMN) によるプロセスのモデル化

BPMN を使用して、ビジネス プロセスを記述できます。これは、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。ARIS Risk & Compliance Manager では、BPMN のタスクはプロセス階層オブジェクトに変換されます。



リスク、統制、調査スケジューラーなどの GRC オブジェクトに [Call activity] オブジェクトを割り当てないでください。Call activity は、ほかでモデル化された要素 (単一のタスクまたはプロセス) を表し、その要素を呼び出すためだけに使用されます。重複を避けるために、[Call activity] オブジェクトは無視されます。

2.2.4 規定と標準の階層

規定と標準の階層は、ARIS モデリング環境の [用語] モデル (MT_Tech_TRM_MDL) で [用語] オブジェクト (OT_Tech_TRM) を使用してモデル化します。[規定] 属性は、一意に規定 (API 名: AT_AAM_ANNUAL_ACCOUNTS_ITEM) を識別するために使用できます。この属性は、個別の [用語] オブジェクトでも [用語] モデルでも使用できます。モデルで使用された場合、そのモデルのすべての [用語] オブジェクトは既定としてみなされます。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

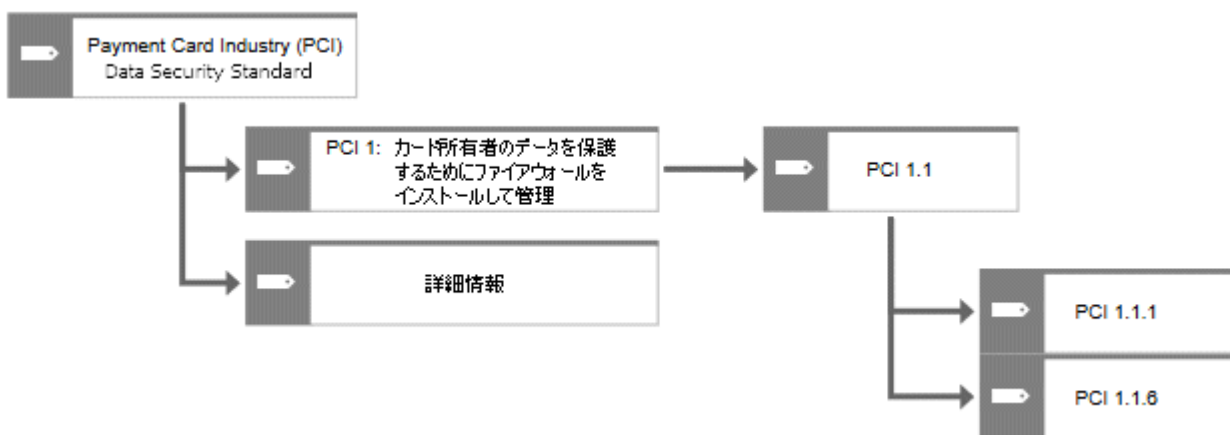


図 12: 規定階層構造

属性マッピング: 用語 (ARIS) と階層 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
概要説明	AT_SHORT_DESC		
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT		サインオフ管理 『79ページ 』に 関係します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

2.2.5 リスク カテゴリの階層

ARIS モデリング環境では、リスク カテゴリの階層は、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) および [リスク カテゴリ] オブジェクト (OT_RISK_CATEGORY) を使用して [リスク図] モデル (MT_RISK_DGM) でモデル化します。リスクは、ここで分類できます。リスクをカテゴリの下位に配置し、関係タイプ [含む] を使用して、そのカテゴリをほかのカテゴリの下位に配置することもできます。ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

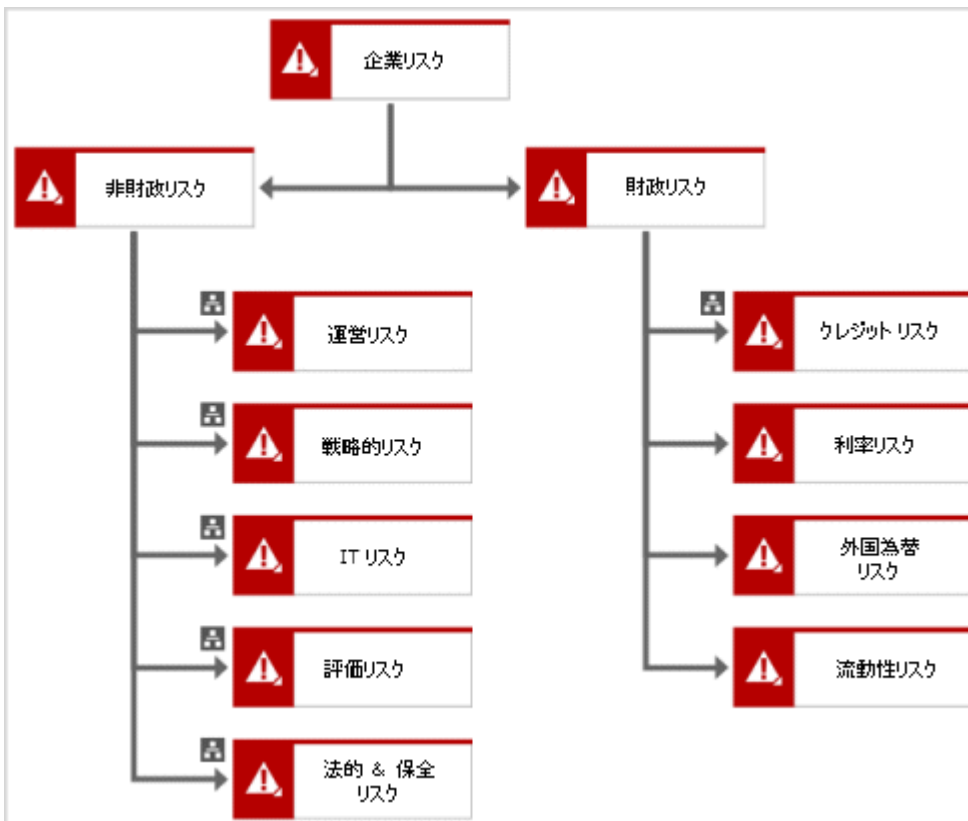


図 13: リスク階層構造

属性マッピング: リスク カテゴリ (ARIS) とリスク階層 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

2.2.6 検査者の階層

統制検査者のユーザーグループは、概要を見やすくするために、検査者の階層内にまとめることができます。検査者の階層は、統制検査の評価などに使用されます。検査者の階層は、ARIS モデリング環境の [組織図] で [組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用してモデル化します。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

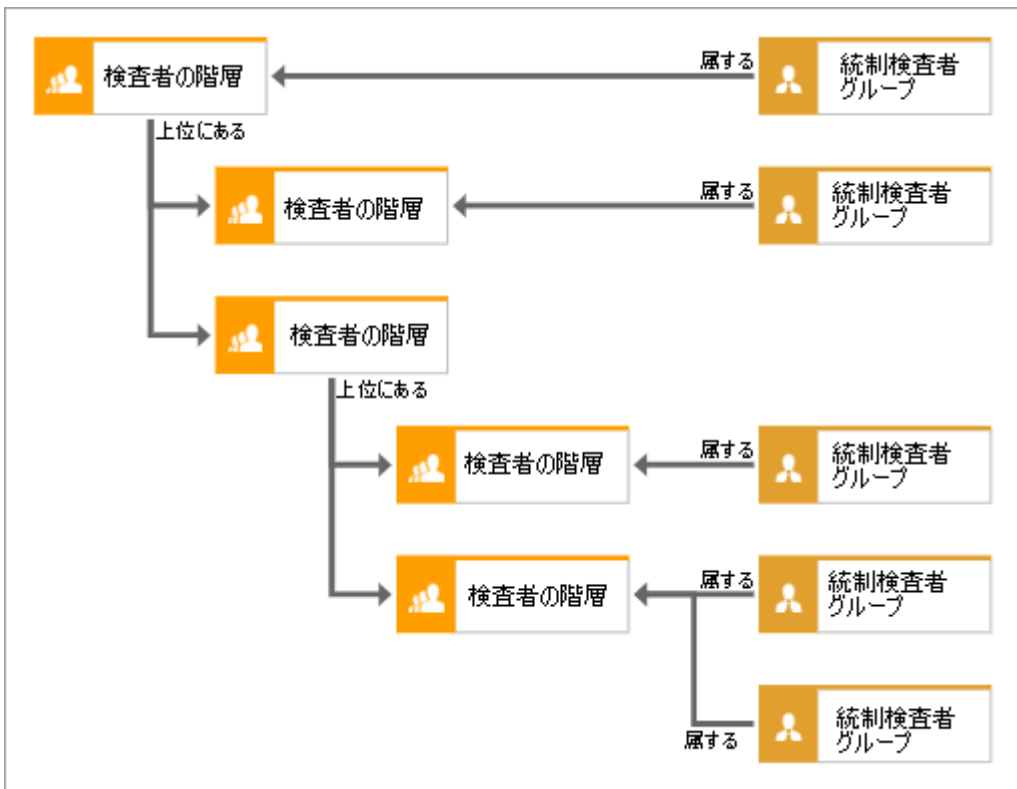


図 14: 検査者の階層

そのため、検査者の階層要素は、各組織ユニットごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。現在、各階層要素は、1 ユーザーグループにのみ割り当てることができます。このため、上の例では検査者の階層要素である [検査者グループ 本社]、[検査者グループ 販売]、[検査者グループ 財務] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[検査者グループ 本社] は、ほかの階層要素の上位に位置します。

属性マッピング: 組織ユニット (ARIS) と検査者の階層要素 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

ARIS 属性	API 名	M*	注意
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT		サインオフ管理 『79ページ 』に関してのみ関係します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3 方針管理表記規則

方針管理の目的は、企業方針を識別、承認、公開することです。これらは、リスクを軽減するための方針でも、具体的なコンテキストがない方針でもかまいません。1 つの方針から公開されるすべてのバージョンは同じ方針の定義に基づくため、長期的な方針のライフサイクル全体が明らかになります。方針の定義から生成される各方針は、指定された期間の間、有効です。任意で、方針の承認ワークフローが実行される場合もあります。必要な場合は、方針の公開後に、方針受取人に方針を読み、確認するよう求めることができます。方針の定義は、方針評価タスクを定期的に生成するように定義できます (ARIS バージョン 9.5 以降)。

3.1 プロセス内の方針

さまざまなモデル『15ページ』を使用して、企業のプロセスと資産を記述できます。プロセス モデル内の方針のオカレンスは、方針に規定されるプロセスまたはプロセス ファンクションを示します。

3.2 ビジネス ルール アーキテクチャ図

方針間の階層をモデル化するために、次の接続線を [ビジネス ルール アーキテクチャ図] モデルで使用できます。

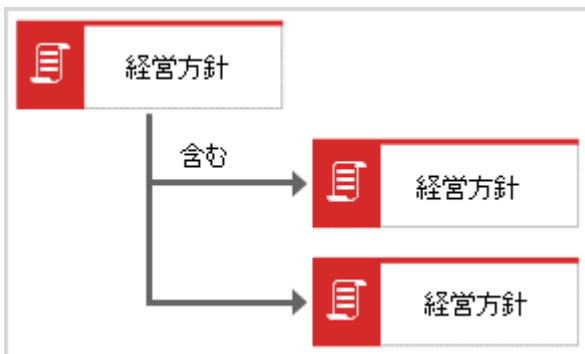


図 15: ビジネス ルール アーキテクチャ図

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	包含する	方針	方針間の階層を表します

3.3 ビジネス コントロール図

マスター データの管理を簡易化するために ARIS モデリング環境で方針の定義をモデル化できます。これには、[ビジネス コントロール図] モデル (MT_BUSY_CONTR_DGM) を使用できます。

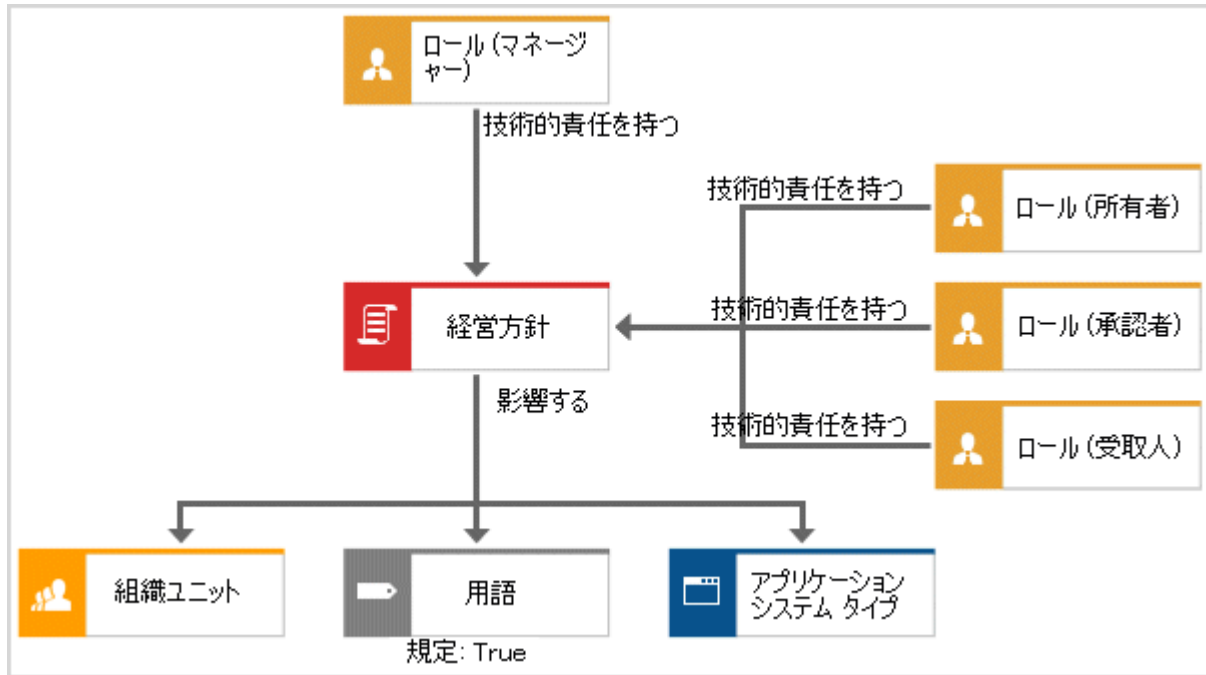


図 16: 方針管理用ビジネス コントロール図

方針オブジェクトの関係

次のオブジェクトと、オブジェクト間の関係が使用されます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
ルール	技術的責任を持つ	方針	ユーザー グループを方針の定義に割り当てます。
リスク	減らされる	方針	方針定義とリスクの間に接続線を作成します。
方針	影響する	組織ユニット	方針定義と影響を受ける組織階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	用語	方針定義と影響を受ける規定階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	アプリケーション システム タイプ	方針定義と影響を受けるアプリケーション システム タイプ階層要素の間に接続線を作成します。

3.4 方針オブジェクト

方針の定義は、ARIS モデリング環境で [方針] オブジェクト (OT_POLICY) を使用してモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されている方針ごとに方針の定義が作成されます。

属性マッピング: 方針オブジェクト (ARIS) と方針の定義 (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
方針タイプ	AT_POLICY_TYPE	○	次の 2 つのオプションから選択できます: <ul style="list-style-type: none"> ▪ [確認が必要] (方針が公開された後に確認プロセスが開始されます) ▪ [公開のみ] (方針が公開されるとプロセスは終了します)
確認テキスト	AT_CONFIRMATION_TEXT		
確認期間 (単位: 日) (確認期間)	AT_CONFIRMATION_DURATION	(○)	方針受取人グループのユーザーが方針を読んで確認できる期間を示します。確認期間は、[確認が必要] タイプの方針にのみ関連します。
公開準備期間の開始日 (公開準備期間)	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	○	方針所有者の承認期間の開始。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
公開準備期間の終了日 (公開準備期間)	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	○	方針所有者の承認期間の終了。
承認期間の開始日 (承認期間)	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	○	方針承認者の承認期間の開始。承認者に対して承認が生成されません。
承認期間の終了日 (承認期間)	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	○	方針承認者の承認期間の終了。
もっとも早い公開日	AT_START_DATE_PUBLISHING_PERIOD		方針を公開できる最も早い日付。設定されていない場合、方針所有者による承認の直後から公開できます。
もっとも遅い公開日	AT_END_DATE_PUBLISHING_PERIOD	○	方針が最後に公開された日付。
ARCM の同期	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT		この属性は、方針の定義を ARIS Risk & Compliance Manager と同期するかどうかを指定します。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		リンクされている文書のタイトルを示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

ARIS 9.5 の方針オブジェクトのその他の属性 (評価属性グループ)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		方針に評価関係としてマークを付けます。
評価アクティビティ (アクティビティ)	AT_REVIEW_ACTIVITY		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_REVIEW_FREQUENCY	(○)	方針評価を実行するインターバルを示します。 方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED		手動で作成されたレビューが方針で許可されるかどうかを示します。 [評価頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「真」に設定されます。
評価実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	(○)	方針所有者が評価を処理するために使用できる日数を示します。評価期間は評価の終了日で指定され、この日付までに評価を終了する必要があります。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。[評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
方針評価の開始日 (開始日)	AT_START_DATE_OF_POLICY_REVIEWS	(○)	方針評価を生成する最初の日付を示します。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。[評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
方針評価の終了日 (終了日)	AT_END_DATE_OF_POLICY_REVIEWS		方針評価を生成する最後の日付を示します。
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD		方針評価が関連付けられている期間を示します。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドを指定することを推奨していますが、必須ではありません。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4 規制変更管理表記規則

規制変更管理の目的は、変更に関する規定または必要な措置を定期的に確認し、担当者への通知と担当者の適切な行動を確実にすることです。評価関連としてマークされた規定について、変更評価タスクが期日に生成されます。担当者は、実行する必要があるアクティビティに関する情報とともにタスクを受け取ります。変更評価による各アクティビティは、後日、すべての参加者に表示されます。

4.1 用語モデル

規定と標準の階層のモデル作成の原則の詳細については、「規定と標準の階層」『20ページ』を参照してください。

4.2 用語オブジェクト

規制変更管理データを指定するためのその他の属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		規定に評価に関係するものとしてマークを付けます。これによって、ここで設定する属性と、「階層所有者」のロールを持つ 1 つのグループの割り当てが必須になります。
評価アクティビティ (アクティビティ)	AT_REVIEW_ACTIVITY		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_REVIEW_FREQUENCY	(○)	評価を実行するインターバルが示されます。方針に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED		手動で作成されたレビューが規定で許可されるかどうかを示します。[評価頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「true」に設定されます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	(○)	階層所有者が評価を処理するために使用できる日数を示します。方針に評価に関するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
評価の開始日 (開始日)	AT_REVIEW_START_DATE	(○)	評価を生成する最初の日付を示します。方針に評価に関するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
評価の終了日 (終了日)	AT_REVIEW_END_DATE		レビューが生成される最後の日付を示します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.3 ロールと用語の関係

規定の評価を担当するユーザーは、階層所有者グループ『2ページ』に割り当てられている必要があります。階層所有者グループ (OT_PERS_TYPE) と規定 (OT_Tech_TRM) 間の責任を割り当てるには、ファンクション割当図 (MT_FUNC_ALLOC_DGM) を次の接続線とあわせて使用します。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
ロール	所有者である	用語	(階層所有者のロールを持つ) ユーザー グループを規定に割り当てます。

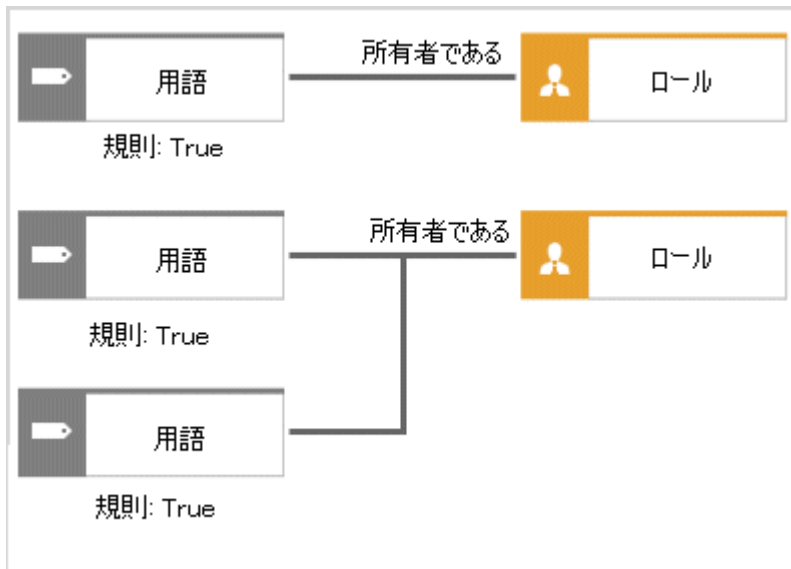


図 17: ファンクション割当図 - ロールと用語

5 調査管理表記規則

調査管理のオブジェクトは、調査の準備、計画、実行、分析のためのものです。調査は、事前定義された頻度で定期的に生成することも、あるいは 1 度だけ生成することもできます。リスク、プロセス、あるいは両者の組み合わせなどのコンテキストがある場合があります。その場合、調査の質問票はコンテキスト オブジェクト ページに表示されます。調査は、1 つまたは複数の調査回答者グループに対して生成できます。それぞれの調査回答者グループに、任意のグループ メンバーが回答できる調査票が 1 通届きます。

調査は、調査回答者が回答する質問を指定する質問票テンプレートに基づきます。質問の構成はセクション別にする必要があります。セクションは、さまざまな調査票テンプレートで再利用できます。質問にはいくつかの種類があります。単一選択と複数選択の質問タイプには、オプション セットに [はい] と [いいえ] などの回答オプションを指定して、再利用できます。

回答オプションのスコアは、質問票の比較または評価に使用できます。たとえば、調査、質問票、セクションに目標スコアを指定すると、目標スコアを達成した質問票を簡単に特定できます。さらに、回答オプションは、回答に応じて追加の質問やセクションをアクティブにできます (依存する質問)。

5.1 質問票テンプレート図

質問票構造の再利用を簡素化するために、質問のグループ（セクション）と回答オプション セットなどを ARIS モデリング環境で質問票テンプレートをモデル化できます。これには [質問票テンプレート図] (MT_SURVEY_MGMT) モデル タイプを使用します。次のオブジェクトをモデルで使用できます。

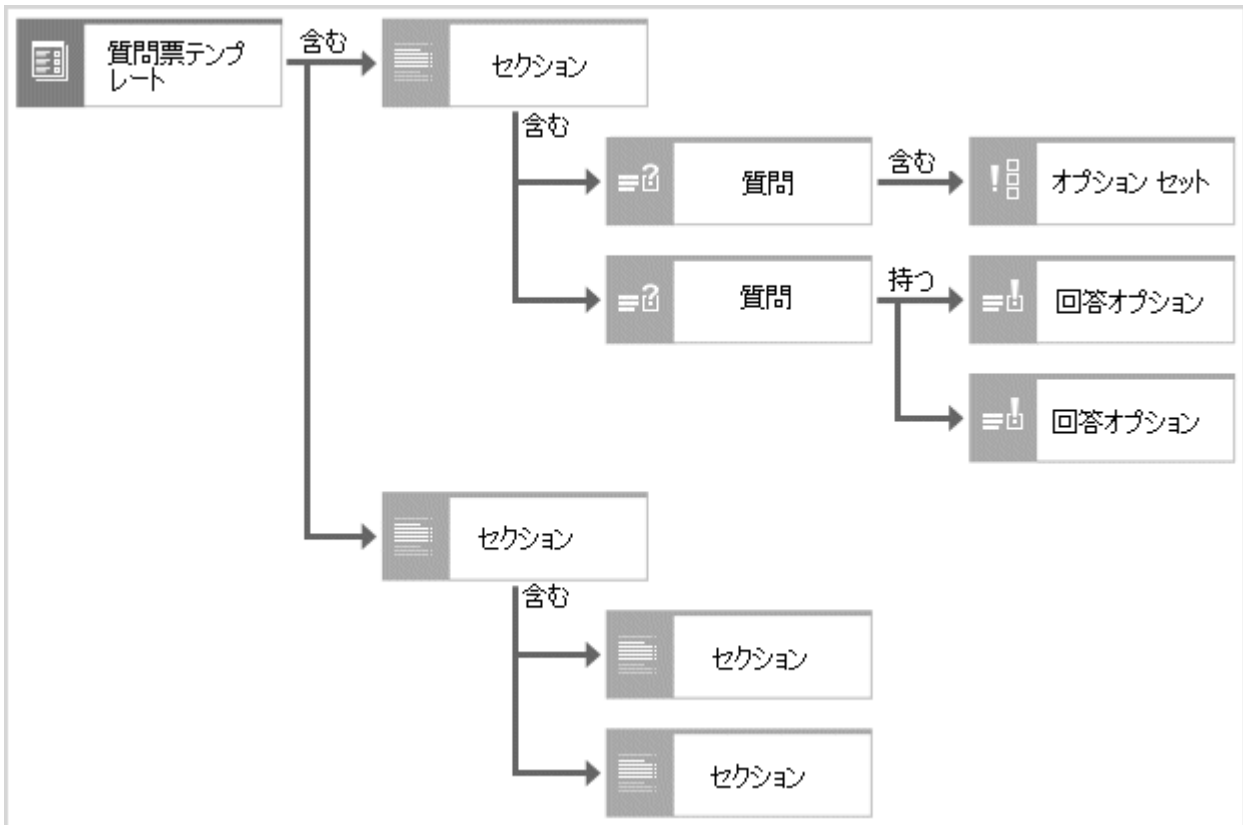


図 18: 調査管理モデル

例

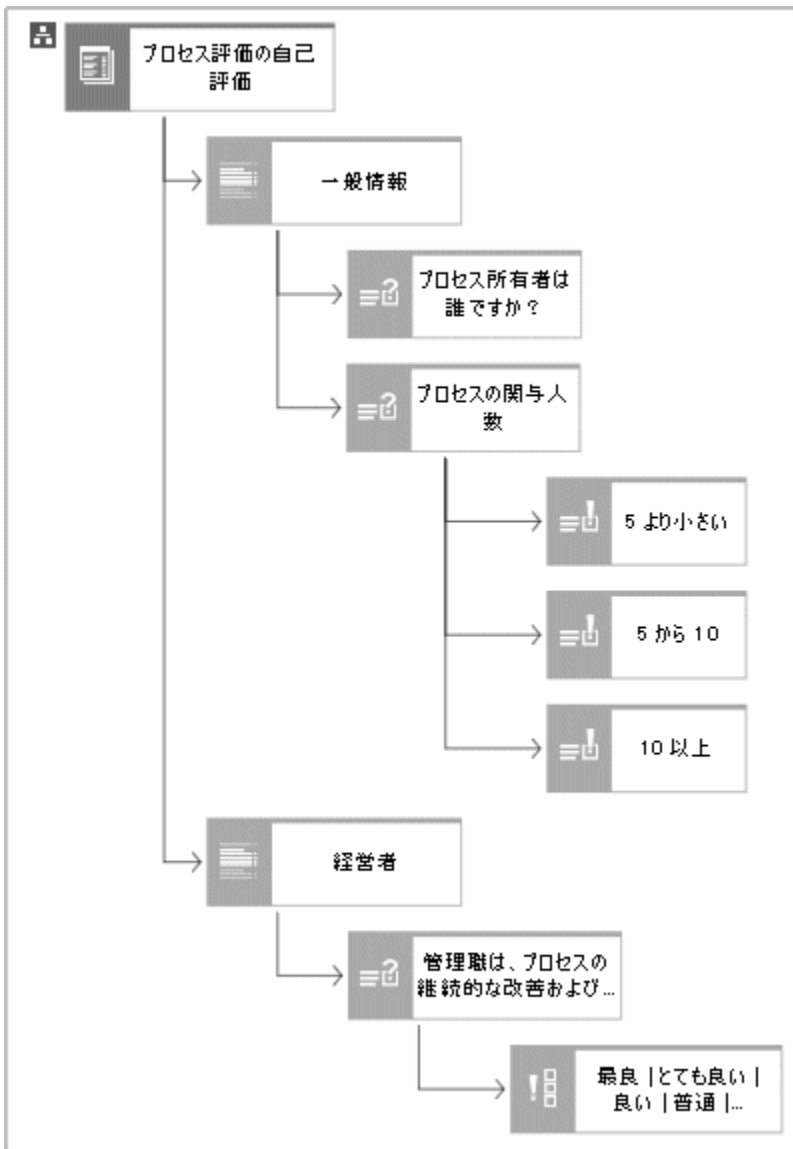


図 19: 質問票テンプレートのサンプル ([調査管理] モデル)

最高レベルのアイテムは質問票テンプレートです（「プロセス評価の自己評価」）。質問票テンプレートには任意の数のセクションを割り当てることができます。セクションは、任意の数のサブセクションを持つことができます。上の例では、質問票テンプレートには「一般情報」と「経営者」の 2 つのセクションがあります。質問は、質問テンプレートに直接割り当ててはできません。質問はセクションにのみ割り当てることができます。質問は 1 つのセクション内で 1 回しか存在できないことに注意してください。質問の上の図では、「プロセス所有者は誰ですか？」および「プロセスの関与人数」は [一般情報] セクションに割り当てられています。「プロセス所有者は誰ですか？」という質問は、[テキスト] 質問タイプです。つまり、この質問の回答にはテキスト ボックスが使用できます。「プロセスの関与人数」という質問は、単一選択の質問タイプです。上の図で示されているように、この質問には 3 つの可能な回答が割り当てられています。ユーザーは、3 つの回答からいずれかを選択してこの質問に回答できます。

可能な回答の組み合わせを頻繁に使用する場合は、これらの回答を 1 つのオプション セットにまとめることができます。上の例では、「管理職は、プロセスの継続的な改善および調整をどのようにして確かなものにしていきますか？」という質問に [最良]、[とても良い]、[良い]、[普通]、[劣っている] のオプション セットが割り当てられています。オプション セットは、[質問票テンプレート図] タイプの同じモデルか、すべてのオプション セットを組み合わせる別のモデルでモデル化できます。

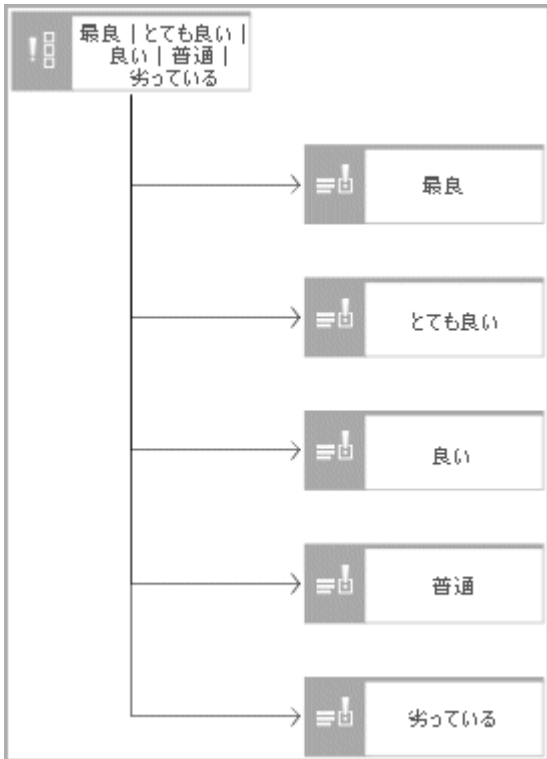


図 20: オプション セット (調査管理モデル)

質問票テンプレートで使用できる接続線と関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	含む	セクション	質問票テンプレートは複数のセクションを持つことができます。セクションは、1 つの質問票テンプレートにのみ存在できません。セクションを別の質問表テンプレートで再使用することはできません。
セクション	含む	セクション	セクションには複数のサブセクションを含めることができます。サブセクションは、1 つの上位セクションしか持つことができません。
セクション	含む	質問	セクションには複数の質問を含めることができます。質問はセクション内で 1 回しか存在できません。ただし、異なるセクションで質問を使用することはできます。質問は、別の質問票テンプレートで使用することもできます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問	含む	オプション セット	質問にはオプション セットは 1 つのみ割り当てることができます。ただし、オプション セットには複数の質問を割り当てることができます。
質問	持つ	回答オプション	質問には複数の回答を割り当てることができます。回答オプションは、複数の異なる質問に割り当てることができます。
オプション セット	持つ	回答オプション	オプション セットには複数の回答オプションを含めることができます。回答オプションは、複数の異なるオプション セットに割り当てることができます。

5.2 質問票テンプレート オブジェクト

質問票テンプレートは、ARIS モデリング環境で [質問票テンプレート] オブジェクト (OT_SURVEY_QUEST_TMPL) を使用してモデル化します。質問票テンプレートは、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されている質問票テンプレートごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。

属性マッピング: 質問票テンプレート (ARIS) と質問票テンプレート (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		

ARIS 属性	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		
スコア (目標)	AT_SCORE_TARGET		スコア (目標) は、特定の質問票に関して達成すべき点数を指定します。
ARCM の同期	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT		この属性は、質問票テンプレートを ARIS Risk & Compliance Manager と同期するかどうかを指定します。
段落番号の自動設定	AT_AUTOMATIC_NUMBERING		ARIS Risk & Compliance Manager の質問票のすべてのセクションと質問に対して、段落番号の自動設定をアクティブ ([[はい]]) または非アクティブ ([[いいえ]]) にします。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

5.3 セクション オブジェクト

セクションは、ARIS モデリング環境で [セクション] オブジェクト (OT_SURVEY_SECTION) を使用してモデル化します。

属性マッピング: セクション (ARIS) とセクション (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
スコア (目標)	AT_SCORE_TARGET		スコア (目標) は、特定のセクションに関して達成すべき点数を指定します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

5.4 質問オブジェクト

質問は、ARIS モデリング環境で [質問] オブジェクト (OT_SURVEY_QUESTION) を使用してモデル化します。オプション セットと回答オプションは、質問に同時に割り当てることはできません。

属性マッピング: 質問 (ARIS) と質問 (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
説明/定義	AT_DESC	○	[説明/定義] ARIS 属性には、生成される質問票に表示される質問テキストが含まれます。
注釈/例	AT_REM		[注釈/例] ARIS 属性には、質問テキストに関する注釈や説明を含めることができます。
メモの使用許可	AT_ANNOTATIONS_ALLOWED		調査回答者が質問に関してメモを追加できるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
文書のアップロード許可	AT_DOCUMENT_UPLOAD_ALLOWED		調査回答者が文書をアップロードして、質問に添付できるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
質問タイプ	AT_QUESTION_TYPE	○	質問タイプは質問の種類を指定します (たとえば、単一選択、テキストなど)。追加情報は以下の章に記載されています。
評価者による評価	AT_REVIEWER_RATES_ANSWER		調査評価者が調査回答者の回答を評価して、スコアを割り当てるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。追加情報は以下の章に記載されています。

ARIS 属性	API 名	M*	注意
任意回答	AT_OPTIONAL_QUESTION		質問がオプションであるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		リンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

質問タイプの属性

回答の基本プロパティは、質問タイプです。質問タイプは、質問にどのように回答できるか、またはしなければならないかを指定します。さらに、質問タイプは、質問がオプションセットまたは回答オプションに割り当てられるかについて影響を与えます。以下の質問タイプを使用できます。それらは互いに排他的です。つまり、質問は 1 つの質問タイプしか持つことができません。

- **単一選択**

単一選択の質問タイプは、調査回答者は、使用できる回答オプションから 1 つの回答のみを選択できることを指定します。この質問タイプを選択した場合は、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。

- **複数選択**

複数選択の質問タイプは、調査回答者は、使用できる回答オプションから任意の数の回答を選択できることを指定します。この質問タイプを選択した場合は、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。

- **テキスト**

テキスト質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に任意のテキストを入力できることを指定します。

- **数値（整数）**

数値（整数）質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に整数を入力しなければならないことを指定します。

- **数値（浮動小数点）**

数値（浮動小数点）質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に浮動小数点値を入力しなければならないことを指定します。

- **日付**

日付質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に日付を入力しなければならないことを指定します。

- **日付範囲**

日付範囲質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に日付範囲（～から～まで）を入力しなければならないことを指定します。

評価者による評価属性

[評価者による評価] 属性が設定されている場合は、調査評価者は調査回答者の回答を評価できます。ただし、これは質問が単一選択または複数選択の質問タイプでない場合のみ可能です。属性が設定されると、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。調査回答者が質問に回答したら、調査評価者は回答オプションから適合する回答を選択できます。これを実行するには、調査評価者は質問に回答するのではなく、調査回答者の回答を評価します。この評価により、対応する質問のスコアが決定します。

5.5 オプション セット オブジェクト

オプション セットは、ARIS モデリング環境で [オプション セット] オブジェクト (OT_SURVEY_OPTION_SET) を使用してモデル化します。

属性マッピング: オプション セット (ARIS) とオプション セット (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

5.6 回答オプション オブジェクト

回答オプションは、ARIS モデリング環境で [回答オプション] オブジェクト (OT_SURVEY_OPTION) を使用してモデル化します。

属性マッピング: 回答オプション (ARIS) と回答オプション (ARCM)

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

5.6.1 依存する質問/セクション

回答オプションと追加の質問/セクション間に依存関係を作成できます。この場合、調査回答者は追加の質問に回答するか、提供した回答に依存する追加のセクションを編集する必要があります。質問タイプが「単一選択」または「複数選択」の場合のみ追加の質問を作成できます。回答オプションで追加の質問とセクションを同時にアクティブ化できます。依存関係は、[質問票テンプレート図] モデルでモデル化されます。依存関係でサイクルをモデル化しないようにしてください。

例

例: プロセスの継続的な改善および調整を保証するために、マネージャのパフォーマンスをどのように評価しますか？

回答オプション 1: [良い] (回答する追加の質問はありません)

回答オプション 2: [普通] (回答する追加の質問はありません)

回答オプション 3: [劣っている] (追加の質問をアクティブ化します: 何か改善できますか?)

[質問票テンプレート図] のオブジェクト関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
回答オプション	アクティブにする	質問	回答オプションで 1 つ以上の質問をアクティブ化できます。
回答オプション	アクティブにする	セクション	回答オプションで 1 つ以上のセクションをアクティブ化できます。

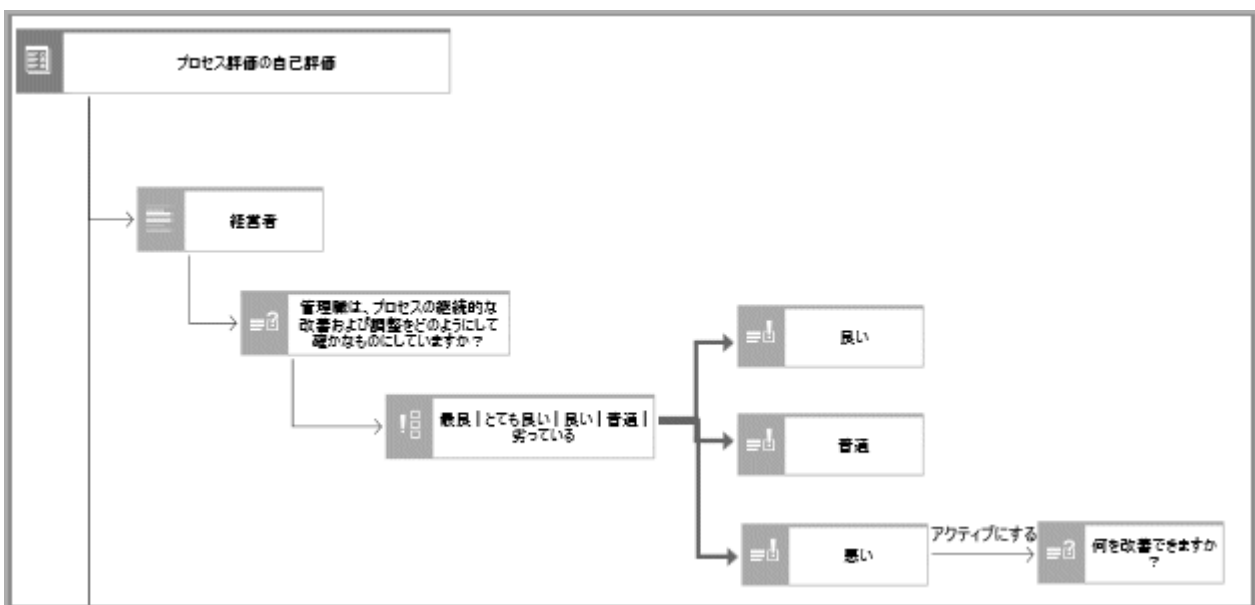


図 21: 回答オプションと質問間の依存関係

依存する質問/セクションのアクティブ化

回答オプションで常に同じ質問/セクションをアクティブ化する

回答オプションは、質問票テンプレートで複数回使用されることがよくあります（回答オプションがオプション セットに属する場合は特に）。たとえば、「劣っている」という回答で常に「何か改善できますか？」という同じ質問をアクティブ化する必要がある場合は、質問をそのオプションに接続する必要があります。セクションにも同様のことが言えます。

例

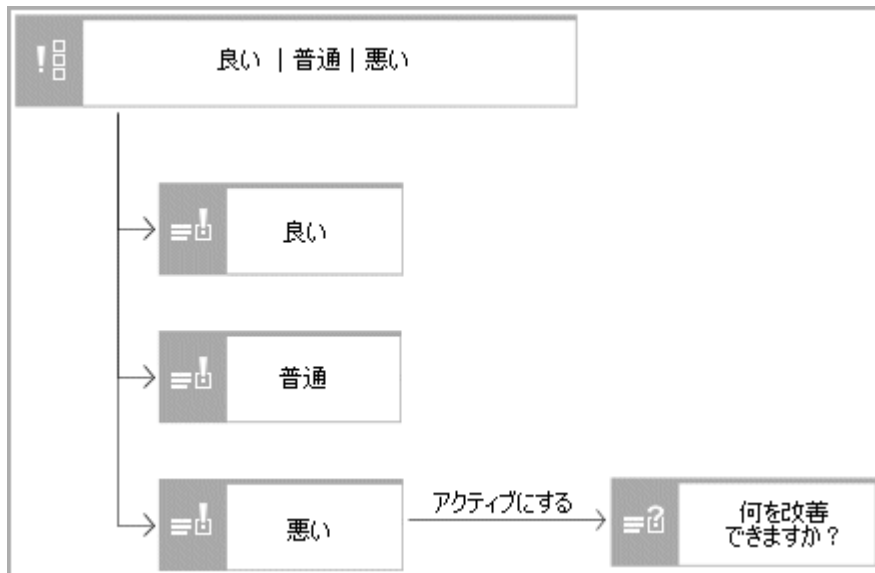


図 22: 回答オプションで常に同じ質問をアクティブ化する

回答オプションで、特定の質問のコンテキストで異なる質問/セクションをアクティブ化する

たとえば、[劣っている] という回答オプションで、コンテキストによって異なる質問をアクティブ化できます。その場合、[有効なコンテキストである] 接続線を使用して、どのコンテキストでどの依存する質問をアクティブ化するか定義する必要があります。セクションにも同様のことが言えます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問	有効なコンテキストである	質問	質問は、特定の質問のコンテキストの回答オプションによってのみアクティブ化されます。
セクション	有効なコンテキストである	質問	セクションは、特定の質問のコンテキストの回答オプションによってのみアクティブ化されます。

例

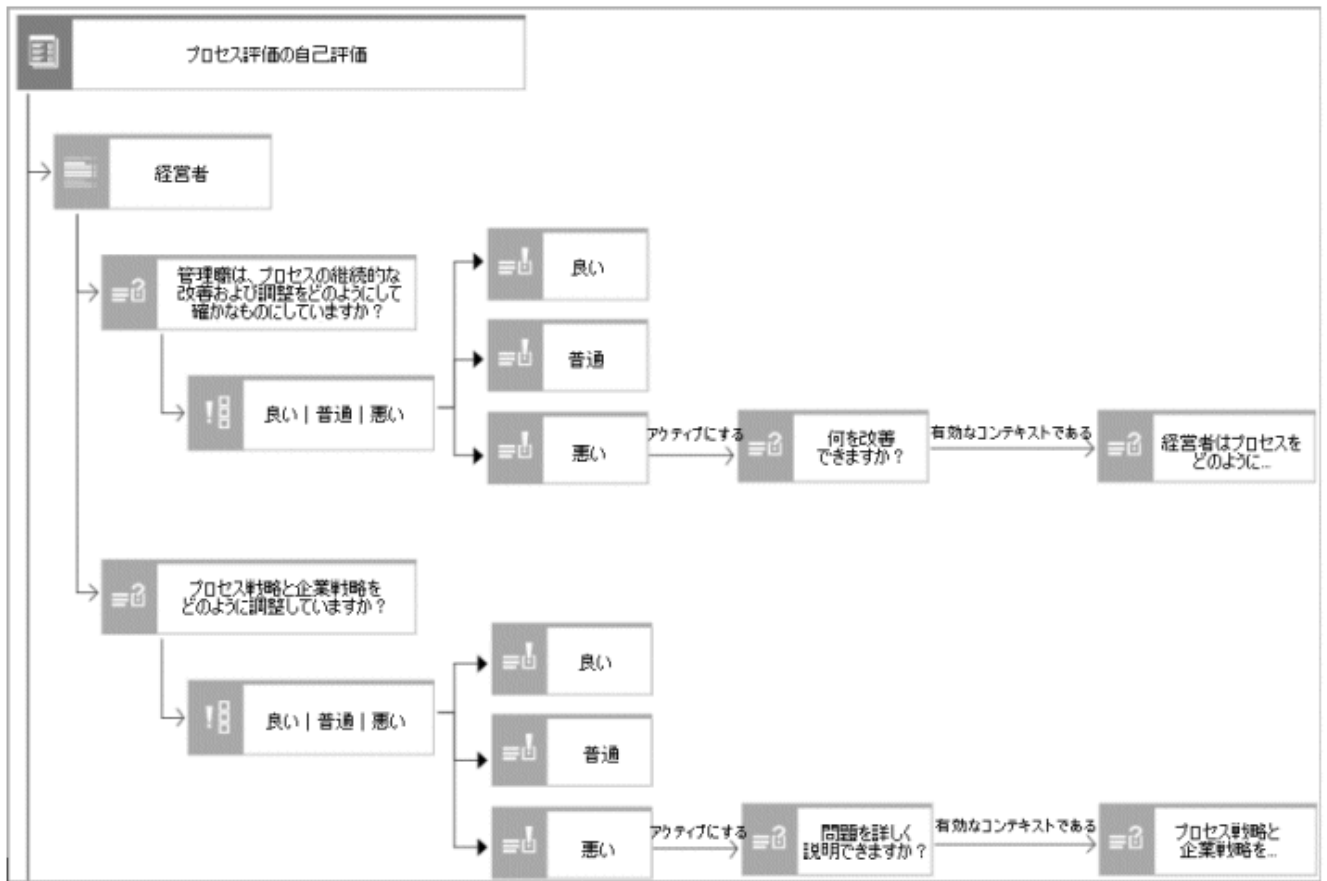


図 23: 回答オプションで異なるコンテキストで異なる質問をアクティブ化する

ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER での依存する質問/セクションの位置

質問票テンプレートを ARIS モデリング環境でモデル化すると、質問票テンプレートを ARIS Risk & Compliance Manager に転送できます ([ARCM の同期])。依存する質問/セクションの位置を ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートで定義する方法は 2 つあります。

有効化する質問の直下の依存する質問/セクション

依存する質問/セクションを、ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造で有効化する質問の下に表示できる場合は、[アクティブにする] 接続線を使用して質問/セクションを ARIS モデリング環境の回答オプションに接続します。

標準のケース

トリガーする回答オプションが ARIS モデリング環境の複数の質問に接続されている場合は、ARIS Risk & Compliance Manager の同期によって、アクティブ化した質問/セクションの対応する数のコピーが生成されます。ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造に、アクティブ化する質問の直下にアクティブ化された質問/セクションの各コピーが表示されます。回答オプションは、アクティブ化する質問の直下に表示される、依存する質問/セクションのみ常にトリガーします。

特殊なケース

複数の回答オプションで同じ依存する質問をトリガーする

1 つの質問の複数の回答オプションで同じ依存する質問をトリガーする場合は、依存する質問は質問の下に 1 回だけ表示されます。

複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する

- セクション内の複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する場合は、依存するセクションはセクションの下に 1 回だけ表示されます。
- 同じ上位セクションに属する複数のセクションの複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する場合は、依存するセクションは上位セクションの下に 1 回だけ表示されます。

複数の質問で同じ依存する質問をアクティブ化する

1 つのセクションの複数の質問で同じ依存する質問をアクティブ化する場合は、依存する質問はセクション内に 1 回だけ表示されます。

定義した位置の依存する質問/セクション

依存する質問/セクションの位置を ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造に指定する場合は、これを ARIS もモデリング環境で明示的にモデル化する必要があります。その場合、[アクティブにする] 接続線を使用して質問/セクションを回答オプションに接続します。また、[含む] 接続線を使用して、セクション/質問票テンプレートに質問/セクションの位置を指定します。

(依存する質問/セクションをアクティブ化する) 回答オプションが ARIS モデリング環境で複数の質問に接続されている場合は、ARIS Risk & Compliance Manager との同期により質問/セクションが 1 つだけ生成されます。ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造で、依存する質問/セクションは ARIS モデリング環境のモデルと同じ位置に表示されます。各回答オプションで同じ依存する質問/セクションをアクティブ化します。例:

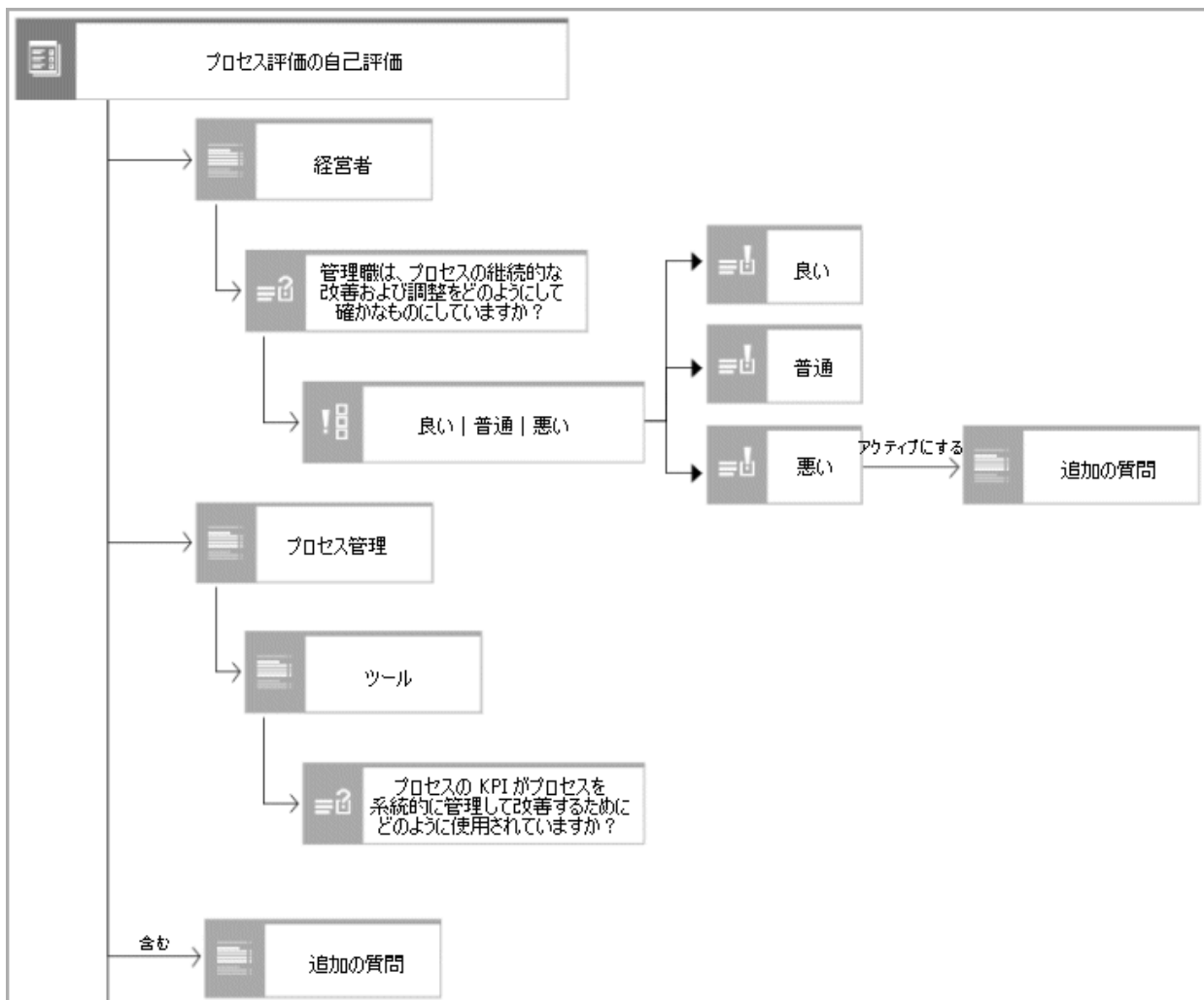


図 24: 構造の定義された位置のセクション

5.7 質問票テンプレート割当図

[質問票テンプレート割当図] タイプのモデルには、[調査管理] タイプのモデルを割り当てることができます。このモデルは、調査に関係する領域、オブジェクト、および階層に関する情報を表します。調査に関わる要素を使用して、[調査スケジューラー] タイプのオブジェクトをモデル化することもできます。[ARCM の同期] 属性が設定されている質問票テンプレートに割り当てられた調査スケジューラーは、その関連情報とともに ARIS Risk & Compliance Manager と同期されます。質問票テンプレートでモデル化された情報は、インポートでは無視されます。

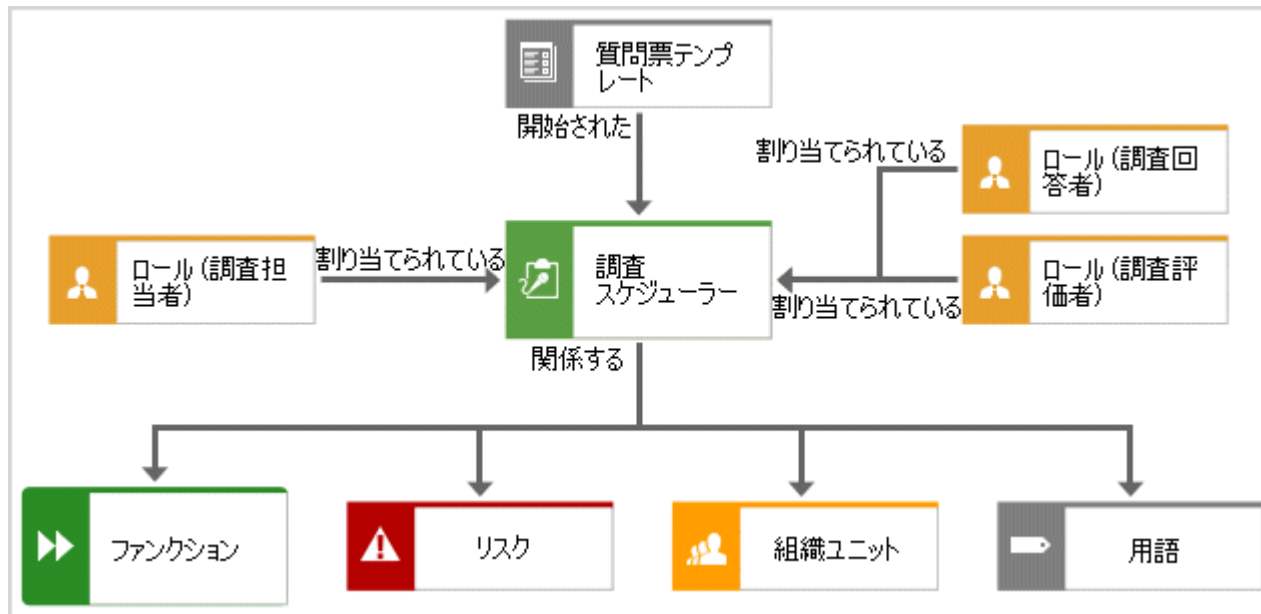


図 25: 質問票テンプレート割り当てモデル


オブジェクトと関係

以下のオブジェクトは、調査が実行されるコンテキストとして使用できます。それらの 1 つまたは複数のオブジェクトを、[質問票テンプレート割当図] モデルにある [質問票テンプレート] タイプのオブジェクトに、[関係する] 接続線を使用して割り当てることができます。


オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト/タスク	OT_FUNC_INST	 プロジェクト  タスク	監査テンプレート/ 監査手順
リスク カテゴリ	リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY	 リスク カテゴリ	リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	 アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ
ファンクション	ファンクション/統制	OT_FUNC	 ファンクション  統制	プロセス/統制

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT		組織
用語	用語	OT_TECH_TRM		規定
方針	経営方針	OT_POLICY		方針の定義
リスク	リスク	OT_RISK		リスク
統制検査の定義	統制検査の定義	OT_TEST_DEFINITION		統制検査の定義

以下のオブジェクトは、調査ワークフローを指定します。そのオブジェクトは、[質問票テンプレート割当図] モデルにある [質問票テンプレート] タイプのオブジェクトに、[開始された] 接続線を使用して割り当てる必要があります。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
調査スケジューラー	調査スケジューラー	OT_SURVEYTASK		調査スケジューラー

質問票テンプレートの担当者グループは、[割り当てられている] 接続線を使用して質問票テンプレートに割り当てられます。調査の担当者グループは、[割り当てられている] 接続線を使用して調査スケジューラーに割り当てられます。1 つまたは複数の調査回答者グループと調査評価者グループは、[割り当てられている] 接続線を使用して調査スケジューラーに割り当てられます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
ロール	ロール	OT_PERS_TYPE		調査担当者グループ、調査回答者グループ、調査評価者グループ

質問票テンプレート オブジェクトの接続線

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	影響する	監査テンプレート/ 監査手順	複数の監査テンプレートまたは監査手順、あるいはその両方を質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	方針	複数の方針の定義を質問票テンプレートに割り当てることができます。 *
質問票テンプレート	影響する	リスク カテゴリ	複数のリスク カテゴリを質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	用語/規定	複数の規定を質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	ファンクション/プロセス	複数のプロセスを質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	アプリケーション システム タイプ	複数のアプリケーション システム タイプを 質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	組織ユニット	複数の組織ユニットを質問票テンプレートに割り当てることができます。 *
質問票テンプレート	影響する	リスク	複数のリスクを質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	統制	複数の統制を質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	影響する	統制検査の定義	複数の統制検査の定義を質問票テンプレートに割り当てることができます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	開始される	調査スケジューラー	複数の調査スケジューラーを質問票テンプレートに割り当てることができます。*
質問票テンプレート	割り当てられている	ロール	複数の調査担当者グループを質問票テンプレートに割り当てることができます。*

* この関係は ARIS Risk & Compliance Manager では使用されません。

例

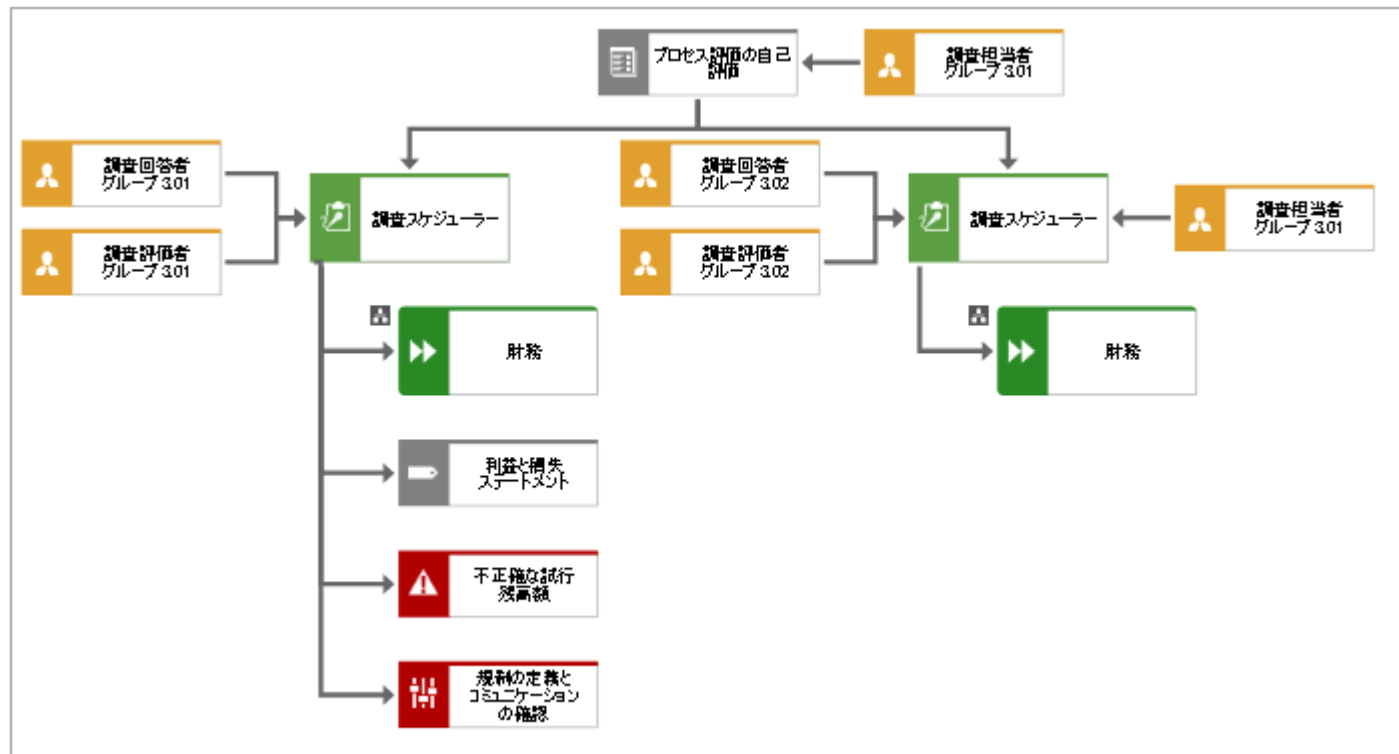


図 26: 質問票テンプレート割り当てモデルのサンプル

5.8 調査スケジューラー オブジェクト

[ARCM の同期] 属性が設定されている質問票テンプレートでモデル化された [調査スケジューラー] タイプのオブジェクトは、調査スケジューラーでモデル化されているすべてのオブジェクトを含む ARIS Risk & Compliance Manager と同期されます。ARIS Risk & Compliance Manager の [調査スケジューラー] オブジェクトに対する ARIS の [調査スケジューラー] オブジェクトには、次のマッピングを適用できます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
頻度 (タスク頻度)	AT_SURVEYTASK_FREQUENCY	○	調査が生成される頻度を定義します。
開始日	AT_SURVEYTASK_START_DATE	(○)	調査の生成を開始する日付が表示されます。[頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
終了日	AT_SURVEYTASK_END_DATE		調査の生成を終了する日付が表示されます。
開始日までのオフセット	AT_SURVEYTASK_OFFSET		調査スケジューラーが統制期間の何日前にあるのかが表示されます。
実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_SURVEYTASK_DURATION	(○)	調査回答者が調査を完了するために使用できる日数が表示されます。期間は、調査を完了しなければならない完了日を定義します。[頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
統制期間の長さ	AT_SURVEYTASK_CTRL_PERIOD		統制の時間単位を指定します。
イベント駆動の調査許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_SURVEYS_ALLOWED		手動で作成された調査が調査スケジューラーで許可されるかどうかを示します。[頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「真」に設定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが表示されます。

6 リスク マネジメントの表記規則

リスク マネジメントの目的は、組織への潜在的脅威を識別および評価することです。リスクは、企業資産に関連する可能性があります。リスク評価は、定期的に、または場合に応じて生成されます。リスクの分析とリスク評価によって、企業はアクションが必要かどうかを評価できます。リスク マネジメントの中心オブジェクトは、リスクとリスク評価です。[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合、リスクがリスク マネジメントに含まれます。

6.1 プロセスと企業資産にあるリスク

さまざまなモデル『15ページ』を使用して、企業のプロセスと資産を記述できます。これらのモデルにあるリスクのオカレンスは、プロセスと資産に発生するリスクの可能性を示します。複数のプロセス ファンクションと企業資産に同じリスクが発生する可能性があります。

6.2 リスクへのモデル アサインメント

次のモデル タイプは、特定のユース ケースの [リスク] オブジェクト タイプにアサインできます。

ユース ケース	アサインされるモデル タイプ
非常時プロセス	EPC
リスク軽減の説明	ビジネス コントロール図
リスク割り当て資産とユーザー グループ	ビジネス コントロール図 (または KPI 割当図)

6.3 ビジネス コントロール図

プロセスまたは企業資産のオブジェクト『11ページ』で識別されたリスクについては、評価に関係のある責任とオブジェクトを [ビジネス コントロール図] で定義できます。つまり、どのリスクがどの組織ユニットに影響を及ぼすかといった、企業資産への影響を記録できます。また、KPI 割当図を使用することもできます。



図 27: リスク マネジメント用ビジネス コントロール図の構造

リスク オブジェクトの継承

[割り当てられている] 接続線 (CT_IS_ASSIG_6) を、リスク間のオブジェクトの割り当てを継承するのに使用できます。出力接続線があるリスク オブジェクトに割り当てられたオブジェクトは、入力接続線があるリスク オブジェクトに継承されます。継承されるオブジェクト タイプは、[ファンクション]、[組織ユニット]、[アプリケーション システム タイプ]、[規定]、[リスク カテゴリ]、[ルール] のみです。オブジェクト タイプは、受信リスクと同じオブジェクト タイプとの間に直接接続線がない場合のみ、継承されます。ルールは、受信オブジェクトと同じルールとの間に直接接続線がない場合のみ、継承されます。例: リスク評価者グループは継承されますが、リスク所有者は継承されません。その理由は、受信リスクがリスク所有者グループに割り当て済みだからです。

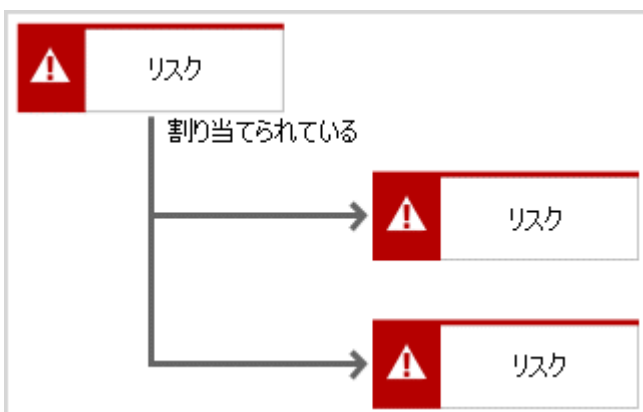


図 28: KPI 割当図 - リスク オブジェクトの継承

リスク オブジェクトの関係

次の接続線が KPI 割当図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	技術的責任を持つ	ロール	この接続線によって、リスク所有者、リスク担当者、およびリスク評価者への関係が作成される[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合は、リスク所有者とリスク評価の割り当てが必須です。その他のすべての割り当てはオプションです。
リスク	影響する	組織ユニット	この接続線によって、組織階層への関係が作成される
リスク	影響する	用語	この接続線によって、規定階層への関係が作成される [リスク タイプ] リスク属性に [財務報告] も選択されている場合は、必須の関係になる。
リスク	影響する	アプリケーション システム タイプ	この接続線によって、アプリケーション システム タイプの階層への関係が作成される
リスク	割り当てられている	リスク	この接続線は、すべてのリスクに同じ規定やリスク評価者がある場合など、1 つのリスクから複数のリスクへのオブジェクト アサインメントを継承するために使用されます。

6.4 リスク オブジェクト

リスクは、ARIS モデリング環境で [リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用してモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されているリスクごとにリスクが作成されます。[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合、リスクがリスク マネジメントに含まれます。

属性マッピング: リスク (ARIS) とリスク (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	内部リスク ID として機能します。
リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		
主要リスク	AT_KEY_RISK		
リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙を使用できます。
説明/定義 (リスクの説明)	AT_DESC		
リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		リスクが特定のカタログまたは産業フレームワークに属するか、またはそれらから抽出されているかどうかを示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		リスクが特定のカタログまたは産業フレームワークに属するか、またはそれらから抽出されているかどうかを示します。
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		設定されている値に応じて、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせて発生できない。
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

リスク マネジメント関連のマークがリスクに付けられている場合のみ、マッピングが ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER に転送されます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リスク マネジメント関連	AT_GRC_RISK_MANAGEMENT_RELEVANT		リスクがリスク評価を生成するかどうかを示します。
評価アクティビティ	AT_GRC_ASSESSMENT_ACTIVITIES		評価ステップを説明する
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_GRC_ASSESSMENT_FREQUENCY	(○)	リスク評価が自動的に生成される頻度を定義する この属性は、[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合のみ必須です。
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_GRC_EVENT_DRIVEN_ASSESSMENTS_ALLOWED		手動で作成された評価がリスクで許可されるかどうかを示します。[評価の頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「true」に設定されます。
実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_GRC_RISK_ASSESSMENT_DURATION	(○)	リスク評価の実行期間を指定する この属性は、[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合のみ必須です。[評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
リスク評価の開始日 (開始日)	AT_GRC_START_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS	(○)	リスク評価の生成が開始される日付を指定する この属性は、[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合のみ必須です。[評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リスク評価の終了日 (終了日)	AT_GRC_END_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS		リスク評価の生成が終了される日付を指定する

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

7 統制管理表記規則

統制管理の目的は、リスクを軽減する統制を、要約、計画、識別、および導入することです。統制は、タイプと効果で記述できます。手動統制の場合、統制の実行を計画できます。統制実行所有者には、タスクが実行されるタイミングが通知されます。統制管理の中心オブジェクトは、統制と統制の実行です。

7.1 プロセスと企業資産にある統制

さまざまなモデル『15ページ』を使用して、企業のプロセスと資産を記述できます。これらのモデルにある統制のオカレンスは、それらが必要とされる場所を示します。複数のプロセス ファンクションと企業資産に同じ統制が発生する可能性があります。

7.2 ビジネス コントロール図

統制管理のためのオブジェクトと関係を ARIS モデリング環境でモデル化すると、マスター データの保守が容易になります。これには、[ビジネス コントロール図] モデル (MT_BUSY_CONTR_DGM) を使用できます。

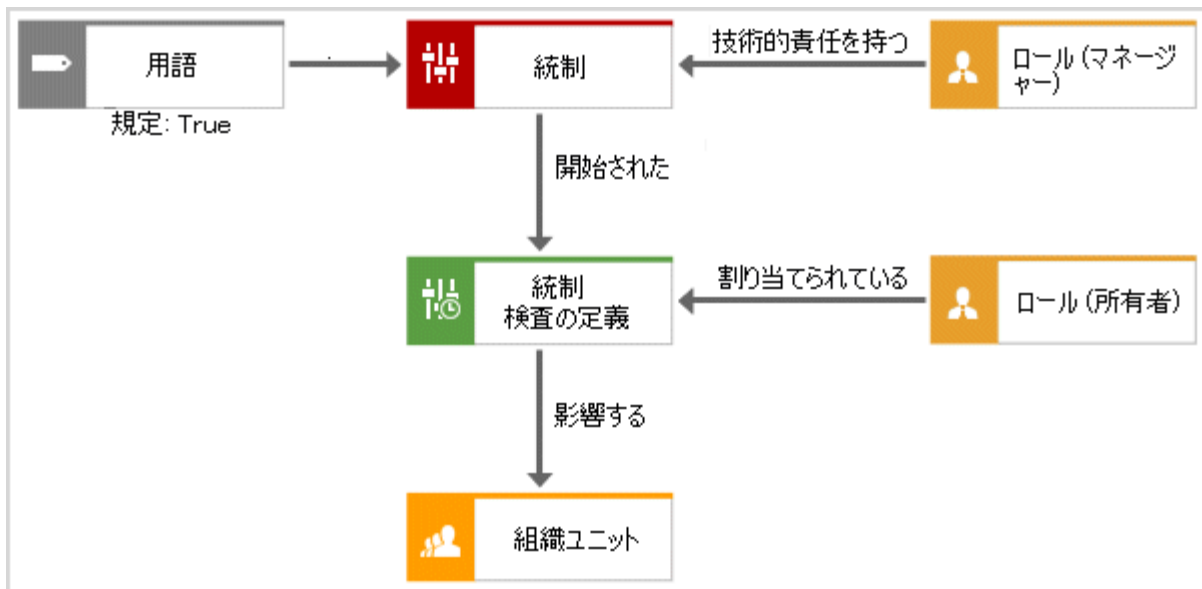


図 29: 統制管理用ビジネス コントロール図

次のオブジェクトと、オブジェクト間の関係が使用されます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
統制	開始される	統制実行の定義	統制実行の定義は、統制実行記録の説明に使用されます。たとえば、記録アクティビティ、頻度、結果形式を指定します。
統制	技術的責任を持つ	ロール	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される。
統制	影響する	用語	この接続線によって、規定への関係が作成される。
統制実行の定義	影響する	組織ユニット	記録の影響を受ける組織ユニットを割り当てます。
ロール	割り当てられている	統制実行の定義	この接続線によって、統制実行所有者への関係が作成されます。統制実行所有者の割り当ては必須です。

7.3 統制オブジェクト

統制は、ARIS モデリング環境で、[ファンクション] オブジェクト (OT_FUNC) とそのデフォルト シンボル [統制] (ST_CONTR) を使用してモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されている統制ごとに統制が作成されます。

属性マッピング: ファンクション (統制) (ARIS) と統制 (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明	AT_DESC		
統制 ID	AT_AAM_CTRL_ID		
統制の頻度 (統制の頻度 (目標))	AT_AAM_CTRL_FREQUENCY		
コントロール タイプ	AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙を使用できます。
統制の効果	AT_AAM_CTRL_EFFECT		
内部統制の構成要素	AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙を使用できます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
統制活動	AT_AAM_CTRL_ACTIVITY		
統制の目的	AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE		
キー コントロール	AT_AAM_KEY_CTRL		
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙を使用できます。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせて発生できない。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

7.4 統制実行の定義オブジェクト

統制の実行は、ARIS モデリング環境で [統制実行の定義] オブジェクト (OT_CTRL_EXECUTION_TASK) を使用してモデル化します。統制の実行は、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されている統制か、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されているリスクに接続されている統制に割り当てられている場合のみ、ARIS Risk & Compliance Manager との同期に含まれます。

属性マッピング: 統制実行の定義 (OT_CTRL_EXECUTION_TASK) (ARIS) と統制実行の定義 (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
統制記録アクティビティ (アクティビティ)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DOC		統制実行の記録に必要なアクティビティを記述します。
選択	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_SELECTIVITY		実行される記録の範囲 (完全な記録、サンプル、サンプル %、サンプル数) を示します。
結果形式	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_RESULT_FORMAT		計算結果の形式を示します。
統制記録の頻度 (タスク頻度)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_FREQUENCY	○	統制実行が記録される間隔を示します。
イベント駆動の統制記録許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_CTRL_EXECUTION_ALLOWED		統制記録の手動作成が許可されているかどうかを示します。[統制記録の頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「真」に設定されます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
統制実行記録の期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DURATION	(○)	統制実行所有者が統制実行記録を使用できる日数を示します。この期間が、統制実行記録を完了しなければならない日付を決定します。[統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
開始日	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_START_DATE	(○)	統制実行の記録の開始日を示します。[統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
終了日	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_END_DATE		統制実行の記録の終了日を示します。
記録期間の長さ	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_CTRL_PERIOD	○	統制実行が記録される期間を指定します。
開始日までのオフセット	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_OFFSET		記録作成期間に先行する記録を作成した期間の日数を示します。
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

8 検査管理表記規則

検査管理の目的は、既存の統制の検査を計画、識別、実行することです。検査活動は、[統制検査の定義] オブジェクトのタイプと効果で記述できます。手動検査の場合、統制検査を計画できます。検査者には、タスクが実行されるタイミングが通知されます。検査管理の中心オブジェクトは、統制と統制検査の定義です。

8.1 ビジネス コントロール図

プロセスで識別されたリスクに関する統制および統制検査の定義（責任を含む）は、ビジネス コントロール図で定義できます。また、どのリスクや統制がどの貸借対照表項目に影響を及ぼすかといった、企業階層への影響についても、記録することができます。

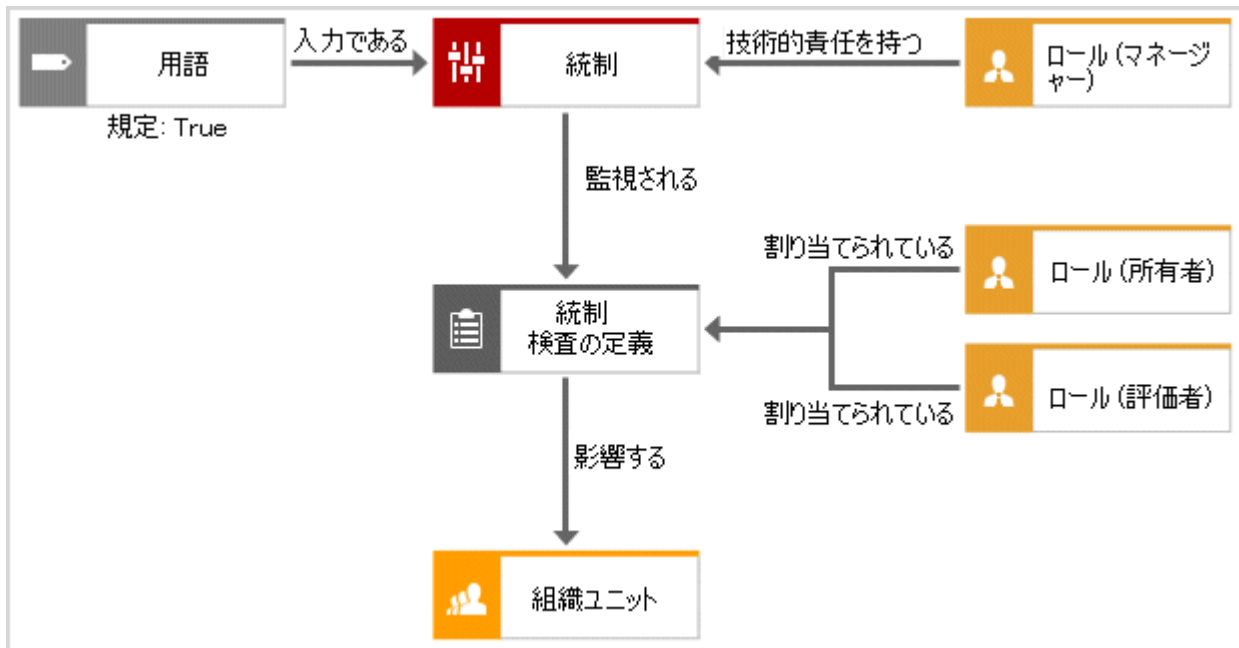


図 30: ビジネス コントロール図

オブジェクト間の関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
統制	影響する	用語	この接続線によって、規定への関係が作成される。
統制	監視される	統制検査の定義	この接続線によって、統制検査の定義への関係が作成される。
統制	技術的責任を持つ	ロール	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される。
統制検査の定義	影響する	組織ユニット	この接続線によって、影響を受ける組織ユニットへの関係が作成される。
統制検査の定義	割り当てられている	ロール	この接続線によって、検査者、検査評価者および検査担当者への関係が作成される。検査者グループと検査評価者グループの割り当ては、必須です。

8.2 統制オブジェクト

詳細については、統制オブジェクト『69ページ』を参照してください。

8.3 統制検査の定義オブジェクト

統制検査の定義は、ARIS モデリング環境で [統制検査の定義] オブジェクト (OT_TEST_DEFINITION) を使用してモデル化します。統制検査の定義は、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されている統制か、[ARCM の同期] 属性が「真」に設定されているリスクに接続されている統制に割り当てられている場合のみ、ARIS Risk & Compliance Manager との同期に含まれます。

属性マッピング: 統制検査の定義 (ARIS) と統制検査の定義 (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
検査活動	AT_AAM_TEST_ACTIVITY		
検査の種類	AT_AAM_TEST_NATURE_INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_REPERFORMAN CE		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙を使用できます。
検査タイプ	AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS	○	値が「真」に設定されていると、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙を使用できます。
検査の規模	AT_AAM_TEST_SCOPE		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
イベント駆動の統制検査許可 (イベント駆動のタスク許可))	AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ALLOWED		手動で作成された統制検査が統制検査の定義で許可されるかどうかを示します。[検査の頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「真」に設定されます。
検査の頻度 (タスク頻度)	AT_AAM_TEST_FREQUENCY	○	
実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_AAM_TEST_DURATION	(○)	[タスク頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
統制検査の定義の開始日 (開始日)	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE	(○)	[タスク頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
統制検査の定義の終了日 (終了日)	AT_AAM_TESTDEF_END_DATE		
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	○	詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
開始日までのオフセット	AT_AAM_TESTDEF_OFFSET		詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
フォローアップ使用可	AT_AAM_TESTDEF_FOLLOWUP		詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

8.4 統制の統制検査の定義の一意性

統制検査の定義は、統制に対して一意である必要があります。つまり、統制検査の定義に接続できる統制は 1 つのみです。

8.5 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動の統制検査許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。さらに、年内にシステムによって統制検査が生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [タスク頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

9 サインオフ管理の表記規則

サインオフ プロセスは、個別の階層要素の統制検査の結果を評価し、上位の階層レベルの結果に集約するために使用される複数レベルの評価プロセスです。ボトムアップ アプローチでさまざまな階層レベルを通過します。評価は、特定の統制期間内に実行された統制検査の結果に基づきます。これらの統制検査は、[リスク]、[統制]、および [統制検査の定義] の基礎要素に基づいています。

サインオフ プロセスは、階層要素のタイプ ([プロセス]、[規定と標準]、[組織] または [検査者]) に基づくことができます。対応する階層要素がリスクまたは統制を経由して統制検査の定義に関連している場合のみ、不備と課題、統制検査がサインオフ プロセスに表示されます。

例

リスクが [組織] 階層要素に割り当てられ、統制を経由して統制検査の定義に割り当てられています。この場合、[組織] 階層タイプは、サインオフ プロセスにあるこの統制検査の定義の統制検査、および不備と課題を表示するサインオフ プロセスのみに使用されなければなりません。

階層オブジェクトは、[サインオフ関連] 属性 (AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT) に「真」が設定され、サインオフ ユーザー グループがこの階層要素か、関連する階層の上位階層要素に割り当てられている場合のみに、サインオフ プロセスに含まれます。

サインオフ プロセス内で、評価は最下位から最上位の階層レベルまで実行されます。上位レベルの階層要素の評価は、下位の階層要素がすべて評価されたあとでのみ実行されます。サインオフ所有者がサインオフの下位階層要素に割り当てられていない場合、これらの下位階層要素は、システムにより自動的にリリースされ処理されます。

9.1 プロセス階層を使用するサインオフ

プロセス階層に基づくサインオフの場合、ファンクションとサインオフ所有者グループ（ロール） の間の関係は、付加価値連鎖図でモデル化されます。次の図に例を示します。[決定する] 接続線によって、サインオフ所有者グループ（ユーザー グループ） とプロセス階層要素間の関係が作成されます。

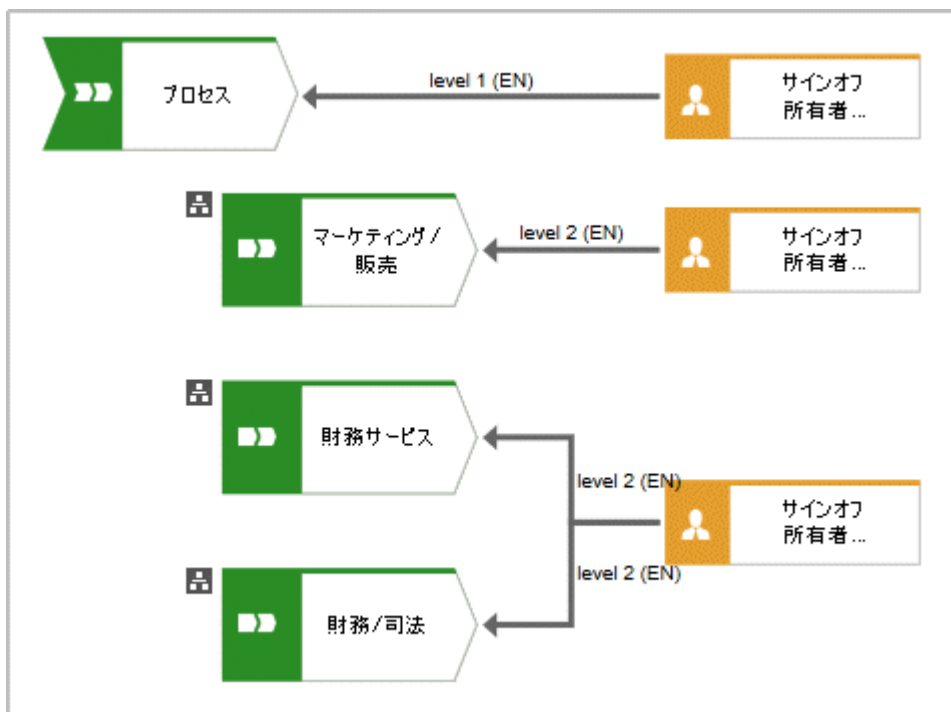


図 31: ファンクションの割り当て - サインオフ所有者グループ

9.2 規定と標準の階層を使用するサインオフ

規定と標準の階層に基づくサインオフ プロセスの場合、規定とサインオフ所有者グループとの関係は、ファンクション割当図でモデル化されます。[所有者である] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

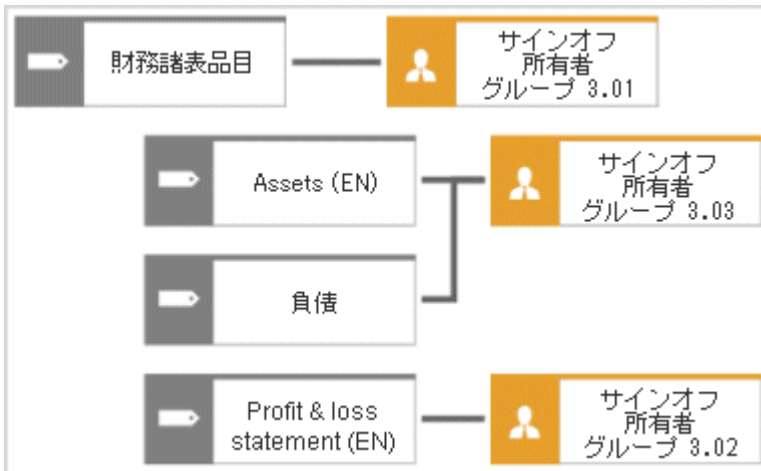


図 32: 規定 - サインオフ所有者グループの割り当て

9.3 組織階層を使用するサインオフ

組織階層に基づくサインオフ プロセスの場合、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係は、企業組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

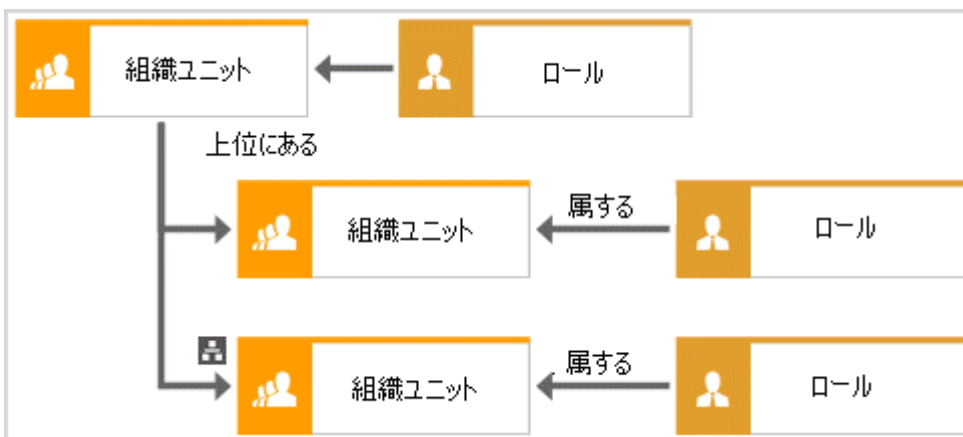


図 33: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループ

9.4 検査者階層を使用するサインオフ

検査者階層に基づくサインオフ プロセスの場合、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係は、検査者階層の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

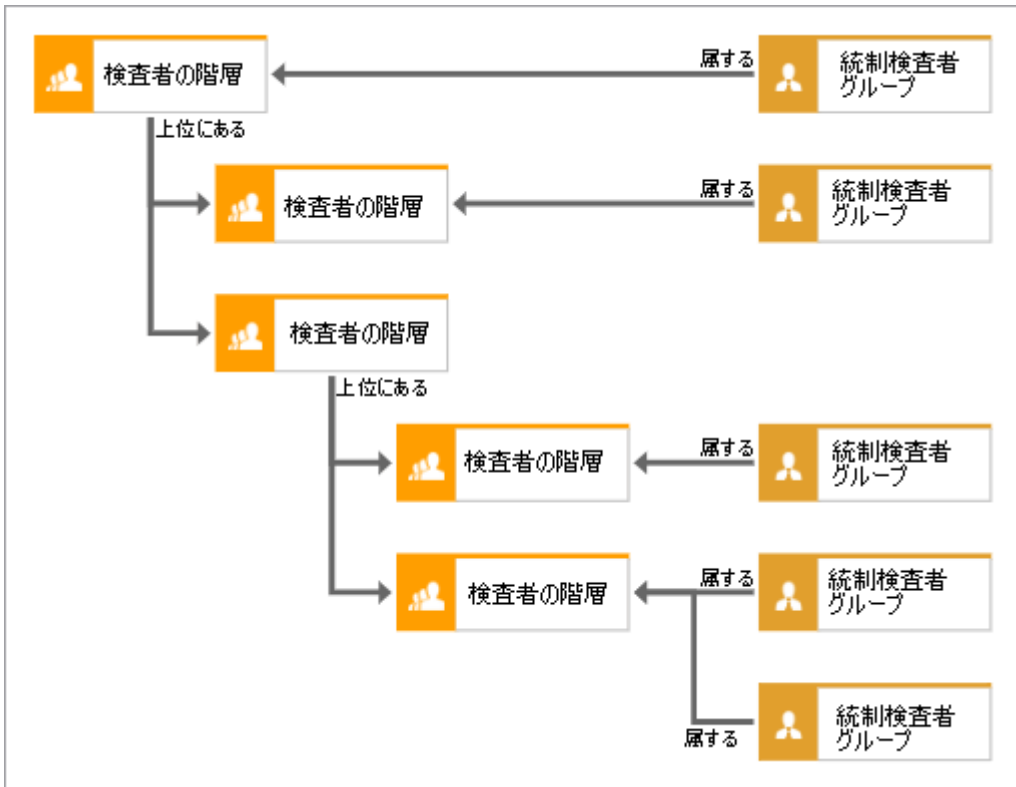


図 34: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループの割り当て

10 監査管理表記規則

監査管理の目的は、企業監査全体のコンテキストで、監査を準備、計画、実行、監視、報告することです。監査全体のコンテキストでは、すべての監査を時系列で詳しく記述します。これは、複数年にわたる監査計画になる可能性があります。各監査は、個別の監査タスクを調整するために時系列の構成になります。マスター データの管理を簡易化するために ARIS モデリング環境で監査テンプレートをモデル化できます。これにより、後日、類似の監査を実行する際に監査テンプレートを再利用できます。

10.1 プロセス スケジュール モデル (監査テンプレート)

これには、[プロジェクト スケジュール] モデル (MT_PROJECT_SCHEDULE) を使用できます。



図 35: プロセス スケジュール モデル - 監査テンプレート

監査管理用のプロジェクト スケジュール モデルの準備

行/列のプロパティは、属性ベースのモデル化のために指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択します。



図 36: [属性ベースのモデリング] を開く

以下のアイテムを編集します。

位置の属性: 開始日 (AT_DATE_START)

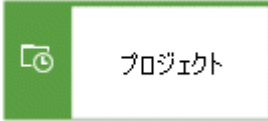

次元の属性: 最大合計時間 (AT_MAX_TL_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元の両方を [プロジェクト] オブジェクトに許可する必要があります。監査プロジェクト テンプレートは、[関係] 行内の [プロジェクト] オブジェクトを使用してモデル化します。[クオリティ ゲート] 行は、監査プロジェクト テンプレートに必須ではありません。



図 37: [属性ベースの モデリング] ダイアログ ボックス

監査用の [プロジェクト スケジュール] モデルで使用できるオブジェクト

オブジェクト 名	タイプ	シンボル 名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト		OT_FUNC_INST		監査テンプレート
ロール	ロール		OT_PERS_TY PE		監査所有者、監査評価 者、監査監査者 (選択した ロールによる)

接続線

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (プロジ ェクト)	実行される	ロール	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、 タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。

10.2 監査テンプレートとしてのタスク オブジェクト

属性マッピング: タスク (ARIS) と監査テンプレート (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
開始日 (監査期間 (目標))	AT_DATE_START	○	監査の開始日。関係者全員にタスクに関する通知が送られます。
最大合計時間 (監査期間 (目標))	AT_MAX_TL_TIME	○	
週末休み	AT_WEEKEND_OFF		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
監査クライアント	AT_AUDIT_CLIENT		監査をリクエストする組織または要員。
ARCM の同期	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT		この属性は、監査テンプレートを ARIS Risk & Compliance Manager と同期するかどうかを指定します。
監査の目標	AT_AUDIT_OBJECTIVE		監査の目標の定義。
監査準備の開始日 (準備の開始日)	AT_START_DATE_OF_AUDIT_PREPARATION	○	準備段階の開始日。監査が生成されます。 監査準備の開始日は、監査の開始日より前に発生する必要があります。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
統制期間の開始日 (統制期間)	AT_START_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	○	監査を実施する統制期間の開始日。
統制期間の終了日 (統制期間)	AT_END_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	○	監査を実施する統制期間の終了日。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		リンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。

ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

10.3 プロセス スケジュール モデル (監査手順テンプレート)

[プロジェクト スケジュール] タイプ (MT_PROJECT_SCHEDULE) のモデルを監査テンプレート (タスク (プロジェクト)) に割り当てて、監査の監査手順を定義できます。

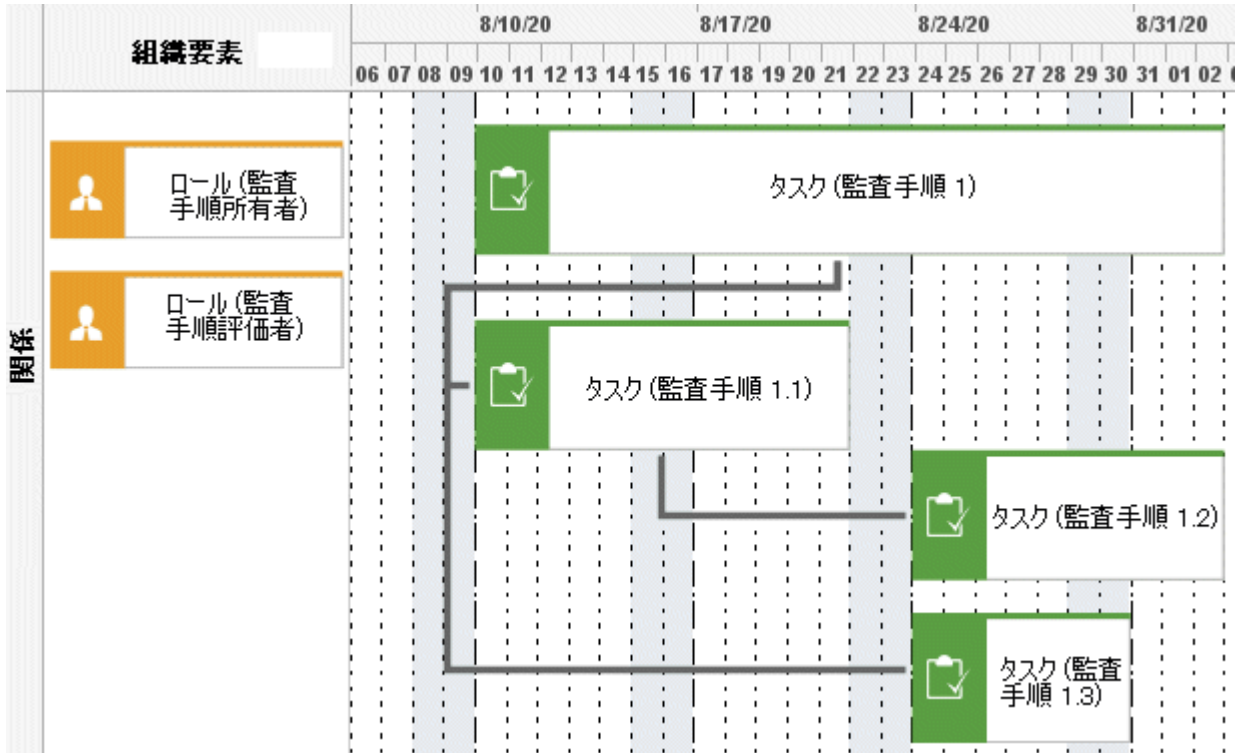


図 38: プロセス スケジュール モデル - 監査手順テンプレート

監査管理用のプロジェクト スケジュール モデルの準備

行/列のプロパティは、属性ベースのモデル化のために指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択します。



図 39: [属性ベースのモデリング] を開く

以下のアイテムを編集します。

位置の属性: 開始日 (AT_DATE_START)

次元の属性: 最大合計時間 (AT_MAX_TL_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元の両方を [タスク] オブジェクトに許可する必要があります。監査手順プロジェクト テンプレートは、[関係] 行内の [タスク] オブジェクトを使用してモデル化します。[クオリティ ゲート] 行は、監査プロジェクト テンプレートに必須ではありません。

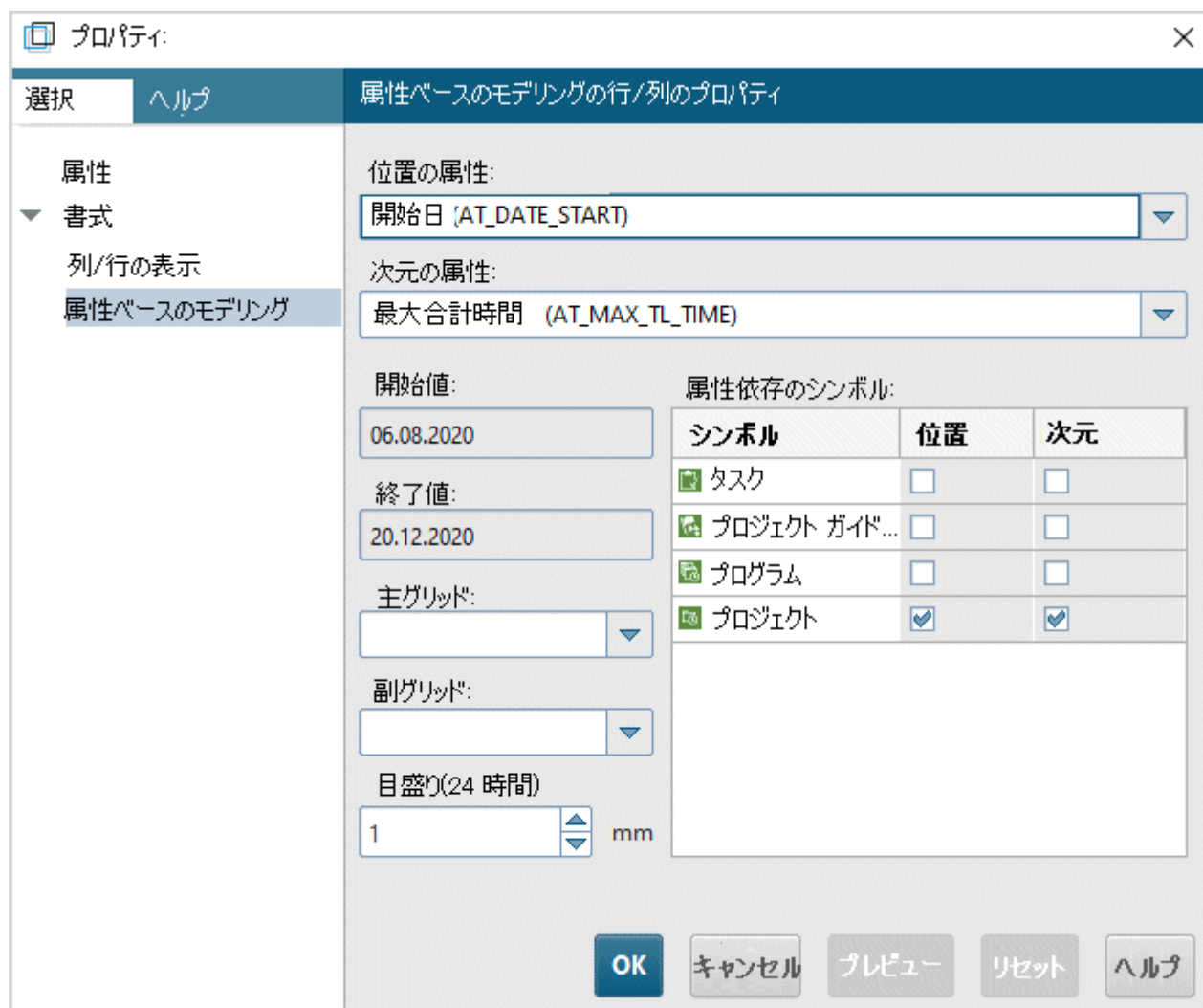
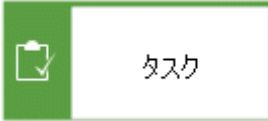



図 40: [属性ベースの モデリング] ダイアログ ボックス

プロジェクト スケジュール モデルで使用できるオブジェクト

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	タスク	OT_FUNC_INST	 タスク	監査手順テンプレート
ロール	ロール	OT_PERS_TYPE	 役割	監査手順所有者

接続線 (監査手順)

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (タスク)	実行される	ロール	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。
タスク (タスク)	属する	タスク (タスク)	上位のタスクを定義します。

10.4 タスク オブジェクト (監査手順テンプレート)

属性マッピング: タスク (ARIS) と監査手順テンプレート (ARCM)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
開始日 (監査手順期間 (目標))	AT_DATE_START	○	監査手順の計画された開始日。
最大合計時間 (監査手順期間 (目標))	AT_MAX_TL_TIME	○	関連する監査手順テンプレートの最大合計時間は、監査テンプレートのプロジェクトの終了日を過ぎてはいけません。
週末休み	AT_WEEKEND_OFF		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
目標処理時間 (処理時間 (目標))	AT_DES_PROC_TIME	○	監査手順の実行に計画された期間
監査手順タイプ	AT_AUDIT_STEP_TYPE		<p>監査手順の次のタスク タイプを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ロジスティクス タスク ▪ 監査タスクのテーマ

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

10.5 タスク割当図

監査または監査手順の範囲を定義するには、[タスク割当図] (MT_FUNC_ALLOC_DGM_INST) を使用できます。選択した範囲にしたがって、統制検査、リスク評価などの関係する要素（定義された統制期間でフィルター）が ARIS Risk & Compliance Manager で割り当てられている監査/監査手順に表示されます。

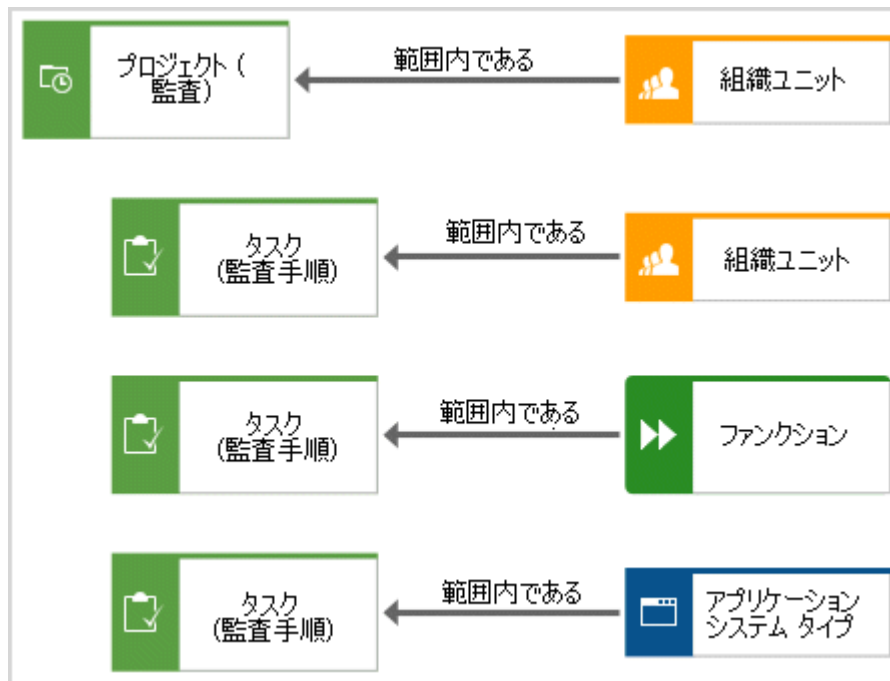


図 41: タスク割当図

タスク割当図で使用できるオブジェクトと名前（範囲）

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト/タスク	OT_FUNC_INST	 プロジェクト  タスク	監査/監査手順
リスク カテゴリ	リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY	 リスク カテゴリ	リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	 アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ
ファンクション	ファンクション	OT_FUNC	 ファンクション	プロセス
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT	 組織ユニット	組織
用語	用語	OT_TECH_TRM	 用語	規定

接続線

オブジェクト	接続線	オブジェクト
リスク カテゴリ	範囲内である	タスク
アプリケーション システム タイプ	範囲内である	タスク
ファンクション	範囲内である	タスク
組織ユニット	範囲内である	タスク
用語	範囲内である	タスク

各監査/監査手順には [範囲内である] タイプの接続線は 1 本のみ使用できます。

11 用語集

用語集には基本用語の説明が記載されています。

4 つの目の原則

「二重統制」を参照。

ARIS モデリング環境

ARIS モデリング環境は、企業規模のプロセス アーキテクチャをモデル化できるアプリケーションの領域です。ARIS モデリング環境は、自動モデリング機能を使用してプロセスを素早くモデル化するのに役立ち、ほかの ARIS アプリケーションでデータを使用できます。たとえば、ARIS Architect、ARIS Connect、ARIS Advanced に ARIS モデリング環境が用意されています。

アサーション

アサーションは検証に関連する文言で、たとえば、会計項目の正確性または網羅性に関連します。企業の会計構造（貸借対照表と損益計算書）に関連するアサーションは、規定と標準の階層で定義されます。リスクに対して該当する文言を定義するには、[アサーション] 属性を使用して 1 つまたは複数の値を選択します。

以下のアサーションを使用できます。

- 実在性
- 網羅性
- 権利と義務の帰属
- 評価と期間配分の妥当性
- 表示の妥当性

インシデント

インシデントは、損失のトリガーです。

運用状況の有効性テスト

統制が実際に有効かどうかを確認するのに使用される検査タイプです。

課題管理

全体の課題管理では、複数のコンテキストにわたる課題で結合されるリスク、統制、方針などのプロセスとオブジェクトが有効になり、さまざまな状況や割り当てられたタスクを参照できます。

不備とは異なり、課題は、ビジネス環境で一回だけ発生する問題です。課題管理を使用すると、危機を回避する目的で、識別された課題を記録、分析、監視することができます。目標は、課題を事前に認識して、解決することです。

内部統制の構成要素

COSO: トレッドウェイ委員会組織委員会の略称 (**C**ommittee of **S**ponsoring **O**rganizations of the Treadway Commission)

この委員会は、次の分野における企業が満たすべき要件を規定し、不正な財務報告を防止することを目的としています。検査の様子は内部統制の構成要素に従って分類することができます。

- 統制環境
- リスク評価
- 統制活動
- 情報と伝達
- モニタリング

信用デフォルト

信用リスクに関連してオペレーショナル リスクによって発生した損失を特定し、損失データベースに運用リスクとして記録し、明示的に示す必要があります (信用リスク領域の信用デフォルト)。このような損失は、オペレーショナル リスクの対象とする金額の計算には使用されません。

不備

統制の設計または実行によってプロセス目標の達成やプロセス リスクの補完を保証できない場合は、不備 (= 統制の不備) が存在します。

直接損失

直接損失は、問題解決と損害修復に関連するコストです。火災にあった工場と機械の再建築など、固定資産の回復が、コストの大部分を占めます。

二重統制

二重統制とは、1 人で重要な決定を下したり、1 人で重要なタスクを編集および評価したりしないようにすることで、二重統制は、義務の分離や 4 つの目の原則などとしても知られています。

4 つの目の原則

「二重統制」を参照。

インシデント

インシデントは、損失のトリガーです。

間接損失

間接損失は、損害を発生するインシデントの結果として生じるコストです。たとえば、火災による生産停止のコスト、契約した納期を守らなかったことによる違約金などです。

課題管理

全体の課題管理では、複数のコンテキストにわたる課題で結合されるリスク、統制、方針などのプロセスとオブジェクトが有効になり、さまざまな状況や割り当てられたタスクを参照できます。

不備とは異なり、課題は、ビジネス環境で一回だけ発生する問題です。課題管理を使用すると、危機を回避する目的で、識別された課題を記録、分析、監視することができます。目標は、課題を事前に認識して、解決することです。

損失

損失は、インシデントの結果です。

ヒヤリハット

ヒヤリハットは、気付くのが早かったために損失を回避できたインシデントです。ヒヤリハットは、望ましくない結果を招きますが、特定のケースで発生しなかったすべてのインシデントです。

引当金

損失引当金は、年度初めに保険会社の経営陣が、会社の新旧クレームの支払に対して固定した金額です。

義務の分離

「二重統制」を参照。

サインオフ

サインオフは、さまざまな階層（プロセス、組織、規定、または検査者の階層）と関連付けることができる複数レベルのリリース プロセスです。分析対象の統制期間および階層要素について、サインオフ担当者は内部統制システムの有効性の評価を提出する必要があります。リリースは、統制期間に実行された統制検査、および関連する不備に関係します。

サインオフ期間

サインオフ所有者がサインオフ プロセスを完了するための期間です。サインオフは特定の統制期間に関連付けられています。

調査期間

調査回答者が質問票に回答するための期間です。通常は統制期間のあとに来ます。

整備状況の有効性テスト

統制が適切に設計され、目的を遂行するかどうかを確認するのに使用される検査タイプです。

運用状況の有効性テスト

統制が実際に有効かどうかを確認するのに使用される検査タイプです。

検査期間

検査者が検査を実行できる期間です。タスク頻度（単発、日次、週次、月次、四半期、半期、年次）、はじめて統制検査が生成された日付、および検査期間（タスク処理の期限）から計算されます。

12 法的情報

12.1 ドキュメンテーションの範囲

記載情報は、公開時点における設定および機能についての説明です。文書とソフトウェアは生産サイクルが異なるため、設定および機能の説明は実際の設定および機能と異なる場合があります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みにになり、その情報を考慮に入れた上で、製品をインストール、設定およびご使用ください。

Software AG によって提供されるコンサルティング サービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオのみしか記述できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示（特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ）に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS クライアント	ARIS Server を介して共有データベースにアクセスする ARIS Architect または ARIS Designer などのすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザを使用してアクセスできる ARIS クライアントを指します。